



# みのはな

## みのはな同窓会総会 開催のお知らせ

令和8年度みのはな同窓会総会を下記により開催いたします。

—東京みのはな会 担当—

### 1. 日時

令和8年6月13日(土) 午後3時30分より

### 2. 会場

銀座アスターお茶の水賓館

電話 03-3293-8011

### 3. 議題

- (1) 名誉会員の推薦について
- (2) 年次活動について(報告事項)
- (3) 令和7年度決算について
- (4) 令和8年度事業計画について
- (5) 令和8年度予算案について
- (6) 役員を選出について
- (7) その他

### 【講演】

松本 晴樹氏(平18) 文部科学省高等教育局医学教育課企画官

### 懇親会 午後6時より

於：銀座アスターお茶の水賓館

会費 一万円

学生会員・平成24年以降卒業の会員は無料

(当日受付にて申し受けます)

※準備の都合上、ご出欠のお返事はなるべく早くをお願い申し上げます。

### 総会出欠 回答用フォーム



【詳細につきましては、同封のお知らせをご覧ください。】

※東京みのはな会総会は同日同所にて午後3時～3時30分に開催します。

### みのはな同窓会賞表彰式

### みのはな同窓会賞受賞者挨拶

### 特別顧問挨拶

三木 隆司氏(昭63) 千葉大学大学院医学研究院長

大鳥 精司氏(平6) 千葉大学医学部附属病院長

### みのはな同窓会への寄附

故 神山 守人先生(昭32)	100,000円
17会(昭47)	46,135円
山形みのはな会	30,000円

### みのはな同窓会 卒後50周年基金への寄附

昭和50年卒クラス会	205,000円
ありがとうございました。	

### 紙面紹介

総会開催	1
会長挨拶	2~3
卒業祝辞	4
就任挨拶	5~8
人事異動	6

受賞の挨拶	8
退任挨拶	9
役員紹介	10
各地みのはな会だより	11~14
クラス会	15~22
会員から	23
医学部資料の調査報告	24

欧州医学史巡り	25
学内情報	26~27
著書紹介	28~29
日本医師会認定産業医研修会	30
議事要旨	31
おくやみ	32
編集後記	32

みのはな同窓会報 第200号記念号を祝して

みのはな同窓会長 吉原俊雄 (昭53)

昭和34年(1959)3月1日付けで「みのはな同窓会報」第1号が発刊され、令和8年の本会報は第200号記念となります。第100号は平成4年(1992)4月1日に発刊され、昭和13年卒の名尾良憲先生が会長として祝辞を書かれています(図1)。名尾先生は千葉医科大学をご卒業された後、三重県立医科大学助教授、都立豊島病院院長および東京女子医科大学教授を兼任、三楽病院院長を経て昭和53年名誉院長に就任された後、昭和63年にみのはな同窓会長に就任されています。名尾会長と同様に東京女子医科大学に関わりました私が200号の祝辞を書くことは歴史の巡り合わせを感じます。また、名尾先生の祝辞文の中に(そのまま引用)、「、、、最近、医療をめぐる環境は、なお一層厳しさを増しつつあります。とくに低医療費制作は次第に強化拡大へと進行しつつあり、開業医、公、私立病院ともに異常とも云える状態に追い込まれていることはご承知のとおりであります、、、」とあります。まさに令和の現状と変わらぬ状況を当時すでに記されています。さらに現在追記すると「、、、私立、国公立大学病院の経営も悲惨な状況、、、」と表現されるのかもしれませんが。しかしながら諦めることなく、様々な方面から少しでも改善していくような同窓生の協力、行動がとれればと思っております。同窓には幅広い人脉をお持ちの先生方も多数おられますので、情報共有の大切さが益々意味を持ってくるでしょう。

同窓会報のほぼ全号は同窓会HPで閲覧可能です。HP上の若いナンバーの会報を閲覧するとかつては学生編集部が大きな役割を持っていたことがわかります。現職教授、事務長の協力のもとで記事作成もされていました。興味深いのは現在と異なり、広告が掲載されている

ことです。千葉トヨペット、製薬会社、三船敏郎氏や仲代達矢氏を起用した広告、学生が頼みに行っていたのでしょうか?居酒屋の五味鳥の広告(図2、3、4)もみられます。お時間のある時に、各自学生時代や大学病院現職時代のバックナンバーを閲覧いただきますと必ずや懐かしい記事に遭遇します。理由は分かりませんが、昭和47年(1972)50号からは広告の掲載がなくなっており、同窓会が自前で運営できるようになったものと思います。



図2 第29号 三船敏郎氏

図3 第45号 五味鳥

図1 会報第100号

図4 第49号 仲代達矢氏

さて、今後の会報のあり方については、冊子形式か現状の新聞様の形式、また縦書きか横書きか？、年間3号の発刊数継続でよいか？など、様々な案が浮上りますが、予算や事務局の負担など総合して判断していきたいと考えています。会員の皆様のご協力といろいろご意見頂きながら、次の250、300号へとつながっていくこと願っています。

同窓会は現役の職員、学生さんへの支援、全国各支部への支援を継続して行うこと、各世代の情報を共有していくことが目標です。そのためにはHPと同時に同窓会報の充実がより大切になります。また、同窓会報以前の「千葉医大同学友会報」など一部欠号もありますが、原本は図書館に残されております（図5）。現役の大学の先生方、職員の方々の今日明日の多忙さを考えますと、過去の歴史的価値あるものを継承して後世に残す作業は同窓会以外にないと考えています。近いうちに同窓会HPでも閲覧できる形にいたします。現在、HPの内容を整



図5 学友会報S12年

理し、修正を加えバージョンアップする方向です。

医学部・病院創立150周年を経て、千葉医学の伝統を形成された素晴らしい先輩の方々の足跡を辿り、現役で活躍されている多くの方々の実績、そして学生さんの将来に寄与しうる同窓会報を発刊し、過去・現在・未来をつなぎ幅広く情報発信していくことを目標としています。

## 令和8年度千葉大学医学部ホームカミングデー

(卒後四半世紀・半世紀卒業生の集い)

### 開催のお知らせ

開催日：令和8年11月1日（日）

ご案内学年：昭和51年卒業生（卒後50年） 平成13年卒業生（卒後25年）

平成23年卒業生（卒後15年）

母校においてホームカミングデーを上記日程で開催します。

卒後50年（昭和51年卒）、25年（平成13年卒）、15年（平成23年卒）の会員皆様にご来校頂き、これまでのご活躍への感謝の念をお伝えし、賞状等を贈呈いたしたく存じます。

万障お繰り合わせの上、ご参集いただけましたら幸いです。

## 卒業祝辞

### 令和7年度千葉大学医学部 卒業証書伝達式・祝辞（令和8年3月23日）

みのはな同窓会長 吉原俊雄（昭53）

ご卒業おめでとうございます。千葉大学医学部みのはな同窓会を代表してお祝いを述べさせていただきます。

皆さんは千葉大学医学部に合格し、入学後は西千葉キャンパス、亥鼻キャンパスで医学部における全教育課程をここに修了されました。学生時代はクラブ活動、亥鼻祭、研究関連のちばBCRC、OSCE時の白衣式をはじめ多くのイベントや実習において、友人とともにすばらしい経験を積まれたことと思います。また、ご家族の皆様にとりましても、お子様たちの本日の姿をご覧になり、晴れがましい気持ちになることはもちろん、将来への期待で胸膨らんでおられることと思います。さらに入学から今日に至るまで、教育に尽力されました教職員、事務職員の皆様には、同窓会として改めて感謝の意を表したいと思います。皆さんは、すでに千葉大学医学部みのはな同窓会の学生会員ですが、卒業後は同窓会正会員として後輩の学生さんを支援していく立場にもなります。同窓だけでなく後輩の学生さんたちも、皆さんの今後の活躍を見守っています。その姿は後輩のロールモデルになるでしょう。

今春からは様々な施設において臨床研修に入れ、貴重な経験を積み重ねていくこととなります。研修後はさらに臨床医として、または研究職や行政職など多くの選

択肢の中、各分野に羽ばたいていくことでしょう。その地域も千葉県内、関東圏、全国各地の大学や病院、研究所、国外など多岐に渡ると想像されます。その際には、思わぬところで同窓の先輩や後輩に遭遇し、お世話になることがあります。改めて同窓の大切さを実感されることでしょう。実際、私自身もそうでしたし、多くの先生方が経験されていることでもあります。

医療を取り巻く環境は時代ごとに変化していきます。私の世代でさえも若い頃は、先輩方から将来の医療は厳しい時代が来ると言われていました。現在も同様に病院、大学病院、研究機関、診療所の後輩からは経営、研究費、いろいろな制約など厳しい意見を耳にします。ただ、今日卒業を迎える皆さんには、これまで以上にいろいろな選択肢があること、未来の研究、臨床の進歩を経験しうること、ご自身がそれを体現できること、新しい医療の進歩に直接関わることなど希望に満ちています。卒業後の輝かしい未来に向けて羽ばたいていかれることを同窓会としてエールを送り、お祝いの言葉とさせていただきます。



令和7年度 卒業証書・学位記伝達式

#### 第120回医師国家試験成績

試験日	令和8年2月7日（土）・8日（日）			
合格発表	令和8年3月16日（月）			
受験者	119名（新卒者 113名）			
合格者	110名	合格率	92.4%	（新卒者 108名 合格率 95.6%）
参考	国立	合格者	4,765人	合格率 93.0%
	全国	合格者	9,139人	合格率 91.6%

就 任 挨 拶

千葉大学大学院医学研究院 精神医学 教授就任のご挨拶

竹 内 啓 善 (平13)

本年1月1日付で、千葉大学大学院医学研究院 精神医学の第8代教授に就任いたしました。私は2001年に本学を卒業後、慶應義塾大学に入局し、医師として、また研究者として研鑽を積んできました。千葉大は医師としての私の生みの親であり、慶應は育ての親と言えます。環境によるエピジェネティックな変化は経てきましたが、私のDNAは紛れもなく千葉大由来です。

この度、四半世紀ぶりに母校へと戻って参りましたが、現在の心境は、かつて留学した当初に似ています。見るものすべてが新しく、ドキドキ、ワクワクしながらも、文化や制度の違いにカルチャー・ショックを受けながら、とにかく今は、日々いろんな方々に会い、話を聞き、現状と課題の把握に邁進する毎日です。赴任して痛感いたしますのは、ここ千葉では、診療・教育・研究・行政のすべてをやらなければならない、裏を返せば、なんでもやれる、ということです。とてつもない重責ではありますが、同時に限りなく自由でもあります。歴史と伝統を継承しつつも、働き方改革に即した取り組みも求められており、既存概念にとらわれない、皆がハッピーになる体制創りに心血を注いでいるところです。迷ったときには、「患者さんのためになるか」と「教育のためになるか」と自問し、常に原点に立ち戻るようにしています。

千葉大精神科は、1907年に松本高三郎先生が初代教授に就任して以来、前代の伊豫雅臣先生までが創られた、120年近い歴史と伝統があります。第8代教授とし

ての私の使命は、同門の先生方が臨床・研究の現場で一層活躍できるように後方支援を行い、千葉県の精神科医療の質をさらに向上させること、千葉から我が国の精神医学の発展に寄与することにあります。大学病院として難治性精神疾患や身体合併症を積極的に受け入れつつ、千葉大と千葉県が有する充実したリソースを最大限に活かし、①児童思春期、②認知行動療法、③リエゾン、④司法、⑤災害医療の五本柱に力を入れたいと考えています。これらを千葉大精神科の特色とし、その魅力を発信するとともに、各分野のスペシャリストを養成するプログラムを開設する予定です。同門会や関連病院の皆様と密に連携し、ぜひ県内一丸となって取り組みたいです。

今回の着任には、運命的なものを感じております。令和8年に第8代教授に就任し、私の誕生日は8月8日です。この「八」が重なる巡り合わせは、まさに末広がりな教室、すなわち「人を育てる教室」を創れという啓示だと受け止めております。自由闊達で和気藹々とした医局を創り、多様な人材を育成し輩出することが、私を選んでくれた母校への報恩であると考えています。至らぬ点多々あるかと存じますが、初志貫徹、誠心誠意、精進する所存です。今後、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



東京科学大学脳神経病態学分野（脳神経内科） 教授就任のご挨拶

三 澤 園 子 (平11)

このたび、2025年5月1日付で東京科学大学（旧・東京医科歯科大学）脳神経病態学分野（脳神経内科）の第5代教授を拝命いたしました。東京科学大学は、2024年10月に東京工業大学と東京医科歯科大学が統合して誕生した新しい大学であり、医工連携や学際的研究の発展が期待されています。そのような新しい歴史の幕開けの時期に、伝統ある教室を担う機会をいただいたことに、身の引き締まる思いとともに大きな責任を感じております。これまでご指導くださった先生方、支えてくださった多くの皆さまに、まずは心より御礼申し上げます。

私は1999年に千葉大学医学部を卒業し、当時医局長であった福武敏夫先生にお声がけいただき、服部孝道教授

主宰の神経内科教室に入局しました。9名の同期に恵まれ、服部教授が別荘に招いてくださるなど温かい雰囲気の中で研鑽を積むことができた日々を、今でも懐かしく思い出します。その後、桑原聡教授のご指導の下、末梢神経のイオンチャンネル機能に関する研究に取り組み、2006年に医学博士号を取得しました。以後、千葉大学で末梢神経疾患を中心とした研究・診療・教育に携わってまいりました。

医師としてのキャリアの大部分を亥鼻キャンパスで過



ごし、同窓会活動にも長く関わらせていただきました。多くの先輩方に育てていただき、同期や後輩の皆さんと過ごした時間は私にとってかけがえのない財産です。そのため千葉大学への思い入れを強く抱いております。一方で、日本の人口や経済規模が今後縮小していくことを考えると、大学や研究室のネットワークを広げていくことの重要性も感じるようになりました。とはいえ、一人で新しい大学・医局へ着任することには大きな勇気が必要でした。働き始めてみて、これまで多くの方々に支えていただいていたことを改めて実感しております。

東京科学大学脳神経病態学分野は18の関連施設を擁し、200名以上の同門会員を有する教室です。先代の横田隆徳教授が築かれてきた核酸医薬の研究を礎に、神経免疫疾患や神経変性疾患の病態解明と新しい治療法の開発を進めていきたいと考えています。そして、亥鼻で育てていただいたご縁を大切に、そしてさらに発展させられるよう努めてまいります。

最後になりますが、これまで支えてくださった皆さまに深く感謝申し上げます。今後とも温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 立命館大学教育開発推進機構 教授

矢野 浩二郎 (平11)

このたび、令和8年4月より立命館大学教育開発推進機構に教授として着任いたしました。千葉大学医学部でご指導いただいた先生方、同窓の皆様にご挨拶申し上げます。

私の亥鼻での学生時代には、谷口克先生・古関明彦先生方のチームによるNKT細胞の研究や、清野進先生・三木隆司先生方のチームによるインスリン分泌制御の研究が国際的に高い評価を受けていらっしゃいました。その姿に触れるなかで、自分も研究の道に進むことを考えるようになりました。あわせて1990年代半ばはゲノム解析や遺伝子発現解析にコンピュータが本格的に使われ始めた時期でもあり、もともとコンピュータに関心のあった私は計算生物学の分野に強く惹かれます。

そこで平成11年に卒業後、張ヶ谷健一先生の腫瘍病理学教室でお世話になったのち英国に渡ってマンチェスター大学で生物学の修士号を取得。そのあとはリバプール大学で膜輸送やカルシウムシグナルの数学モデルとコンピュータシミュレーションに従事して博士号を取得いたしました。続いてケンブリッジ大学で博士研究員、のちにペンブルック・カレッジのシニアリサーチフェローとして約7年間、神経細胞の電気生理と遺伝子発現の統合解析やバイオインフォマティクス研究に従事いたしました。ケンブリッジでは研究にくわえ学部教育にも従事しましたが、カレッジを単位としたスーパービジョンと呼ばれる学生一人ひとりへの個別指導が根付いており、研究と教育の双方を高い水準で追求することが大学を支えているのだと実感いたしました。

2011年にはイギリスから帰国し、大阪工業大学情報科

学部に着任いたしました。しかし、数百人を前にした一方向の講義の日々の中で、ケンブリッジの個別指導との差を強く意識するようになります。一方その頃、中央教育審議会が大学教育の質的転換を答申で打ち出し、アクティブラーニングや教育の質保証が国を挙げて議論され始めたことが、研究の新しい方向を定める契機となりました。私は自分のデジタル技術でこの変革に貢献できるのではないかと考え、教育工学の研究へと軸足を移すことにします。以来15年間、VRやメタバース、生成AIといった先端技術の教育応用と実証を重ねてきました。また、約3,000人が参加するオンライングループを主宰して実践知を共有し、企業への学術指導や人文学分野との共同研究にも取り組んでいるところです。



私が新たに着任する立命館大学は京都・滋賀・大阪に3つのキャンパスを構え、16学部21研究科に約3万5千人が学ぶ国内有数の総合大学です。教育開発推進機構は全学の教育の質保証を担い、FD研修や授業設計の支援、教学データに基づく教育改善を進めております。ここで私は、生成AIを活用した教育アプリケーションの開発、教員への教育テクノロジー研修に取り組んでまいります。これまで蓄積してきた知見を広く教育現場に届けていく所存です。

私が新たに着任する立命館大学は京都・滋賀・大阪に3つのキャンパスを構え、16学部21研究科に約3万5千人が学ぶ国内有数の総合大学です。教育開発推進機構は全学の教育の質保証を担い、FD研修や授業設計の支援、教学データに基づく教育改善を進めております。ここで私は、生成AIを活用した教育アプリケーションの開発、教員への教育テクノロジー研修に取り組んでまいります。これまで蓄積してきた知見を広く教育現場に届けていく所存です。

千葉大学での6年間と先生方のご薫陶が、今日の私の原点です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

### 人事異動

#### 教授

精神医学

竹内 啓善 (平13)

医療の質・安全学

滝沢 牧子 (群馬大・平7)

イノベーション再生医学

高山 直也 (筑波大・平13)

国際アレルギー粘膜免疫学

倉島 洋介 (明治大農・平17)

#### 講師

疾患生命医学

島田 龍輝 (総研大・令2)

## 獨協医科大学 医学教育学講座 主任教授

山内 かづ代 (東京女子医大・平11)

令和7年4月1日付で獨協医科大学医学教育学講座主任教授を拝命いたしました。これまでご指導を賜りましたみのはな同窓会の諸先生方に心より御礼申し上げます。

私は千葉県市原市の出身であり、医師としての歩みの原点には常に千葉の地があります。東京女子医科大学在学中に前十字靭帯を断裂した経験から整形外科に関心を抱き、伊藤達雄先生の勧めもあり、平成11年卒業後、守屋秀繁先生が率いられていた千葉大学整形外科の門を叩きました。地元に戻る安堵と同時に、歴史ある教室の一員となることへの身の引き締まる思いを抱いたことを今でも覚えております。

入局当時、同門の女性整形外科医は十名程度でしたが、性別に関わらず一人の医師としてご指導いただき、臨床・研究・教育、さらには留学を含めた多様な機会を与えていただきました。高橋和久先生、大鳥精司先生からは「何事もチャレンジ、出る杭は打たれるが出過ぎた杭は打たれない」と励まされ、その言葉に支えられて歩み続けることができました。現在、後輩の女性医師が自然に活躍している姿を見るにつけ、当時の教室の懐の深さと温かさに深く感謝しております。大学病院および関連施設での診療・手術修練、大学院での研究、米国UCSDでの基礎研究留学など、医師としての基礎を形づくった重要な経験の多くは千葉大学で与えていただいたものであります。

帰国後、医学教育研究室においては臨床実習留学と医学英語教育を融合した国際プログラムの推進にも関わりました。多様な背景を持つ教員の協力のもと、学生の国際力向上と留学支援に携わった経験は、医学教育を専任

として歩む基盤となりました。また整形外科の診療参加型実習の運営・改善にも主体的に携わり、先生方や学生の意見を反映しながら臨床教育を形づくっていく過程は、教育の喜びと責任を学ぶ貴重な機会となりました。



その後、米国MGHならびに母校での医療者教育学の研鑽を通じて臨床・研究・教育を三位一体として捉える視点を獲得することができました。現在、日本整形外科学会医学教育委員会委員長として運動器疾患・外傷教育の在り方に関する全国的検討に関わらせていただいておりますが、これらの経験の延長線上にあるものと受け止めております。

現在、獨協医科大学に着任し1年が経ち、多くの教職員の協力を得てアウトカム基盤型教育を柱とした、知識・技能・態度の調和を備えた医師の育成を目指すカリキュラムの開発、実践、評価に取り組んでおります。地域医療を支え得る人材の養成に尽力してまいります。

振り返りますと、臨床医としての出発点、研究者としての視点、教育者としての志のいずれもが千葉大学での経験に深く根ざしております。亥鼻の地での学びとみのはな同窓会の先生方とのご縁は、今なお私の支えであり続けています。甚だ未熟ではございますが、医学教育を通じて次代を担う医療人の育成に微力を尽くしてまいります。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 名古屋市立大学大学院医学研究科 先進救急災害医学講座 主任教授

船越 拓 (平17)

このたび、名古屋市立大学大学院医学研究科先進救急災害医学講座を主任教授として担当するとともに、名古屋市立大学病院救命救急センター長を拝命いたしました船越拓と申します。紙面をお借りして、千葉大学みのはな同窓会の諸先生の皆様にご挨拶させていただく機会をいただき、大変光栄に存じます。

私は2005年に千葉大学を卒業しました。現在の初期臨床研修制度の黎明期に松戸市立病院（現：松戸市立総合医療センター）と千葉大学のたすき掛けプログラムで学び、双方の病院で千葉大学の各科の先生方に温かいご指導のもと、医師の礎を築いて頂きました。なかでも両病院でローテートした救急集中治療の分野に魅了され救急科の研修を開始しました。松戸市立病院や東京ベイ・浦

安市川医療センターを中心に、多発外傷、重症敗血症、心肺蘇生後、災害・多数傷病者事案など、いわゆる「最後の砦」として求められる現場での診療に取り組みました。千葉大学では救急集中治療医学の織田成人前教授、東京ベイでは国際医療福祉大学の志賀隆教授にご指導いただけたことは大きなキャリアの財産です。新型コロナの流行期には県内の各救命救急センターのセンター長の先生方と一丸となり診療にあたり、千葉大学卒業生の絆を強く感じられました。また、千葉大学総合診療部（現：総合診療科）では生坂政臣前教授に近



年増加傾向である軽症患者の診断推論の方法論をご指導いただき、「0歳から100歳まで、軽症から重症まで」を体現できる救急医になるべく研鑽を積んで参りました。

教育面では臨床推論や意思決定、コミュニケーションや臨床倫理を中心として救急集中治療領域で必要とされるリベラルアーツの教育を得意とし、研究面では主にビッグデータを用いた疫学研究を専門にしており千葉大学での博士号獲得から一貫して臨床研究に取り組んで参りました。中部地方でこのようなチャレンジする機会に恵まれたのも同門の先生方のご支援の賜物です。大学病院で働くのは本当に久しぶりなのですが学生教育などにも関われる環境を存分に楽しみたいと思っています。

名古屋市立大学病院では2026年に新たな救急災害センターの開棟が予定されており、地域の救急・災害医療の中核としての役割を果たすべく、診療体制の整備と人材育成に取り組んでおり、これまで培った視点と経験を活かしつつ名古屋の新たな救急・災害医療の拠点となるべく邁進していきたいと考えております。

まだ力不足の点多々ございますが謙虚さと挑戦心を忘れず職責を全うする所存です。これまでご指導ご支援を賜りました多くの先生方、諸先輩方、そして同僚・後輩の皆様にご心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお申し上げます。名古屋にお立ち寄りの際はぜひお声がけください。

## 受賞の挨拶

### 旭日双光章受章、日本医師会最高優功賞受賞のご報告

登坂 薫 (昭50)

令和7年11月に医師会事業に著しく貢献したということで日本医師会最高優功賞、そして保健衛生功労により旭日双光章を受けました。

私は昭和50年千葉大学医学部を卒業し、北村武教授(昭13)の主宰する耳鼻咽喉科学教室に入局しました。ゐのはな同窓会長の吉原俊雄先生(昭53)とは同じ釜の飯を食い、長いお付き合いになります。その後、当時の石川哮助教授(昭35)が熊本大学耳鼻咽喉科学の教授に就任されるのに伴い熊本大学に異動しました。昭和59年には越谷市で開業し、同時に埼玉県耳鼻咽喉科地方部会の理事に推薦されました。その後常任理事、副会長(兼医会会長)を務めて現在に至っています。10年前に埼玉県耳鼻科休日急患診療体制を構築し、10校の耳鼻科学校医を開業以来続けています。

越谷市医師会では平成10年から現在まで役員を続けています。会長時代は医療拠点集約化を目指し、越谷市医師会館新設に伴い、保健所、保健センター、夜間急患診療所、訪看・居宅を一カ所に集約しました。さらに埼玉県医師会の常任理事を3期6年間務め、主に災害関係を担当していました。当時石川広己(昭55)日医常任理事(災害担当)にはご指導をいただきました。県役職を辞した後は日本耳鼻咽喉科学会(日耳鼻)の監事を務めております。吉原同窓会長も日耳鼻の理事で大変ご活躍されていました。

#### 「日医最高優功賞について」

11月1日(土)の朝から日本医師会で表彰式があり、壇上で松本日医会長から表彰状を授与されました。最

高優功賞は全国で18人です。金一封が出るとのことで楽しみにしていましたら、想像を遙かに超えたものでした。式の後の懇親の場では、自見はなこ先生(東海大・平16)をはじめ10人以上の医系議員からお祝いの言葉をいただきました。このように医系議員が多数おられること、心強く感じました。

#### 「旭日双光章について」

陛下拝謁当日は、モーニングコートに勲章を佩用し皇居に参内しました。11月28日(金)厚労省関係叙勲伝達式がホテルニューオータニで行われ、その後バスで皇宮に向かい、長和殿前の広場で待機し豊明殿に入殿いたしました。豊明殿はトランプ大統領宮中晩餐会が開催されたところでした。幸い最前列の中央に座ることができました。侍従の人から拝謁式の手順を詳しくレクチャーされ、全員起立して待っている中、陛下が入室されひな壇でご挨拶がありました。500人以上を前にマイクなしで話されましたが、とてもよく通るお声でした。最前列の10人ほどの方々は、陛下よりお言葉を賜っておられました。陛下がすぐ近くにお出でになられた際には、私も拝顔することが叶い、とても貴重な体験でした。

これが医師人生のゴールではなく、新しいスタート地点とし、今後も地域医療の発展向上にささやかながら努力を続けていきたいと思っています。



## 退任挨拶

### 千葉の地で巡り会えた方々へ

千葉大学フロンティア医工学センター 林 秀 樹 (昭60)

フロンティア医工学センターは2003年4月に、医学部と工学部のスタッフが一つ屋根の下で新しい医療技術開発を行うという、故磯野可一元千葉大学学長の発想に基づく学長直轄の組織として生まれました。それまで、千葉大学先端応用外科の助手として医学研究に邁進していた私にとっては、開設のひと月前になって突然学長から頂いた提案はまさに青天の霹靂でした。

与えられたものは広いフロアの一角にある机とパソコンのみ。工学系のスタッフは大勢の学生・大学院生を引き連れる中、たった一人で船出することになった日の戸惑いは今も忘れません。そんな中、初代センター長の三宅教授（医用画像工学）は大変な酒豪でしたが、お酒の席のたびに工学研究の何たるかを懇切丁寧にご指南いただくなど、大変暖かく迎えていただきました。また、それまで医学研究として行っていた胃癌に対する腹腔鏡下術式やセンチネルリンパ節ナビゲーションのなどの新しい医療技術開発は、臨床を附属病院で、基礎研究を工学部で行うという二足の草鞋でよいのではないか、という当時の先端応用外科・落合武徳教授のお言葉は、その後の私の研究スタイルを決定づけるものになりました。こ

れに加え、第二代のセンター長・伊藤公一教授（電磁波工学）がJSTから多額の予算を獲得、サイエンスパークセンターとして動物飼育・実験設備、X線CT撮影装置、近赤外蛍光観察装置、組織標本解析設備などを導入して頂くに至って、本格的な研究の再スタートを切ることができました。また、工学部の学生に研究として生体を取り扱うことの重要性を示すことができたのも貴重な体験となっています。



このほか、医用画像工学の中口教授と二人三脚で附属病院内に設置したメドテック・リンクセンターでは、千葉県産業振興センターの協力も得、8年間という短い期間の中で医療現場におけるニーズを解決するいくつかの製品を上市することができました。

これらの業績をもって定年を迎えることができたのも、すべて千葉の地で巡り会えた様々な領域の方々に導かれてのことであり、ここに改めてそのお力添えに深く感謝申し上げます。

### 医学と薬学の連携をめざして

千葉大学大学院薬学研究院 分子心血管薬理学 高野 博之 (昭62)

2011年7月に千葉大学大学院薬学研究院分子心血管薬理学の教授として赴任し、この2026年3月末に定年退任いたしました。千葉大学医学部循環器内科から薬学部分子心血管薬理学までの約40年間を千葉大学で過ごしたことになります。薬学部では在宅医療で活躍できる薬剤師、そして心不全診療ができる薬剤師の育成につとめました。授業では病気の機序と最新の治療法、検査値の読み方を、実習では千葉大学病院の聴診シミュレーターを用いて、聴診器の使い方や心音・呼吸音の聞き取り方を習得できるよう心掛けました。また、在宅医療現場を体験してもらうために開発した千葉大学教育GP「グローバルエイジング時代の地域包括医療ケアを支える先導的薬剤師育成プログラム」を担当しました。学生は在宅医療をおこなっている医師や薬剤師と一緒に患者宅を訪問し、学内の授業では得られない有意義な経験となりました。

薬剤師向けの活動として、「心不全患者の在宅医療で活躍できる薬剤師の育成」講習会を開催しました。これまでも薬剤師向けの勉強会や講習会は数多くありましたが、医

師である自分が薬剤師と一緒に講習会などを企画し開催するのは意味があると考えたからです。薬剤師から普段聞けない意見をもらうことができ自分自身も大変勉強になりました。また、毎年2回ずつ千葉大学薬学部公開講座を企画し開催しました。千葉の医療の現状を知り、在宅医療に関心をもってもらうことを目標に、薬剤師を含む大勢の医療従事者に参加していただきました。



最終講義のためにいろいろ過去を振り返ってみました。実に多くの人に支えていただき今日の自分がいるのだと再認識しました。医学と薬学の連携に少しでもお役に立てたのなら幸甚です。4年間ではありますが、千葉大学教育研究評議会評議員として本学の教育研究に携わることもできました。長きにわたりご支援をいただき誠にありがとうございました。千葉大学医学部・医学研究院の益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 役員紹介

### 令和8年度 むのはな同窓会 新理事 就任挨拶

千葉大学 むのはな同窓会 理事 古屋好美 (昭53)

このたび むのはな同窓会理事を拝命した古屋好美と申します。私は卒業後、母校の医局に残らず、当時新設の浜松医科大学脳神経外科教室（植村研一教授）に入局して脳神経外科専門医の資格を取得し臨床を24年間経験後、故郷の山梨県で令和5年3月まで保健衛生行政に21年間携わりました。現在は県産業医と脳神経外科外来業務のかたわらコロナ禍の保健所の最前線で戦った経験を人材育成の仕事（ふるや健康危機管理研究所）に活かそ

うと努めています。臨床から行政への人生の転換期に山梨県 むのはな同窓会の皆様が温かくサポートしてくださったことは忘れません。世代・専門分野・立場を超えて同窓生の絆を強めるように理事会の皆様と共に取り組みたいと思います。よろしくお願ひいたします。



### 令和8年度 むのはな同窓会 新学年幹事 就任挨拶

学年幹事 長南修一 (令8)

このたび、学年幹事を拝命いたしました、長南修一と申します。

まずは、皆様の日頃からのご支援に、心より御礼申し上げます。お陰様で、充実した学生生活を送ることができました。

この6年間で得た先輩方、同期、後輩との繋がりは、生涯にわたり大切にすべき財産であると感じておりま

す。幹事として、世代を越えた繋がりがより豊かなものとなるよう尽力致しますので、今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



### 令和8年度 むのはな同窓会 新学年幹事 就任挨拶

学年幹事 中橋大義 (令8)

この度、新学年幹事を拝命いたしました中橋大義と申します。

むのはな同窓会の皆様には、これまで多方面にわたり学生生活をご支援いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

微力ではございますが、そのご厚意に報いるべく、伝統を重んじ、長南とともに同期の皆が母校とのつながり

をより身近に感じられるよう、活動に努めてまいります。

今後とも、温かいご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



## 各地みのはな会だより

### 山梨みのはな会

令和7年度山梨みのはな会総会が猛暑の中、令和7年7月24日甲府市のシャトレゼホテル談露館にて8名の先生方にご参加いただき2年ぶりに開催されました。

始めに昨年ご逝去されました当会で長年最年長であられた横山宏先生（昭25年専卒、令和6年1月8日御逝去）のご冥福を祈り黙とうを捧げました。

会は中澤肇会長の挨拶で始まりました。中澤先生からは8年間会長を務めましたがコロナ感染により思うように会が運営できず残念であった事。また体調などの都合により退任したいので後任を決めてほしいとのことでした。

このため協議を行い、後任として鶴田が引き継ぐことになりました。よろしく願いいたします。中澤先生、長年の会長職お疲れ様でした。

続いて本日最年長の清水天先生（昭39卒）の御発声で乾杯となりました。

今回は小侯政男先生が7月16日に「昭和天皇記念学術賞」を受賞されましたのでそのお祝いを兼ねて行いました。同賞は日本赤十字社の血液事業に関わる最高位の賞であり、秋篠宮妃紀子さまより直接手渡されたそうです。これを祝して小侯先生に記念品と花束の贈呈を行い

ました。ご挨拶では肝炎研究によるものであろうとの事でした。おめでとうございます。

歓談の中では、直前の参院選挙、医師会の事、健康保険制度、診療報酬、患者の受診行動の変化など多彩な話題に皆で盛り上がりました。また小侯先生、桜井先生からは公立病院での経営にご苦勞されている事、またパワハラにも気を使われている事などお聞きしました。経営に関する話題が出るなど今までにはない事でした。

最後に鶴田がみのはな同窓会の話題を報告しました。医学部150周年記念事業の記念誌発行、長尾精一初代校長胸像再建、旧本館DVD作製、医学部150年の年表作製について、またホームカミングデーの実施について伝えました。

今回もあっという間に時間は過ぎ30分ほど時間オーバーしましたが、最後に出席者全員の写真撮影を行い閉会となりました。

近年は会員の新規加入が少なく高齢化もあり会員数の減少、総会参加者の減少が進んでいます。少ないからこそ総会には是非多くの先生方に御参加いただき親睦を図れるような会にしていきたいと思えます。よろしく願いいたします。  
（文責：鶴田好孝、細田和彦）



写真左から

前列：清水天（昭39）、小侯政男（昭45）、花輪孝雄（昭45）、中澤肇（昭52）

後列：細田和彦（昭58）、鶴田好孝（昭54）、櫻井大樹（平9）、古屋好美（昭53）（敬称略）

## 神奈川みのはな会

### 令和7年度神奈川みのはな会総会開催報告

令和7年7月26日に、横浜駅近くの崎陽軒本店にて開催されました。会員16名の出席がありました。

はじめに平澤晃会長（昭60）のご挨拶により開会しました。

続いてみのはな同窓会会長吉原俊雄先生から「千葉大学みのはな同窓会報告」として、同窓会の現在の状況や、亥鼻キャンパスの様子など、お話を頂きました。

次に平澤晃会長から前回総会以降の会務の報告があり、一任とされていた新役員の紹介もありました。続いて令和6年度の会計報告が行われ、承認されました。

大学関係からは北里大学医学部主任教授（免疫学）（平11）の末永忠広先生、北里大学医学部衛生学講師武藤剛先生（平19）がご参加下さいました。また、亥鼻

祭実行委員長、副委員長の学生へ恒例の亥鼻祭奨励金の授与が行われました。

特別講演を神奈川県立がんセンター総長の古瀬純司先生（昭59）に頂きました。ご自身の歩まれた歴史、成された業績、がん診療の進歩を中心にお話しを頂き、現在の神奈川県立がんセンターについても伺うことができました。

引き続き、懇親会が行われました。中華料理を頂きながら歓談し、参加者全員の近況報告もありました。最後に全員での写真撮影を行い、散会となりました。

神奈川みのはな会総会は、コロナ禍からはオンライン開催を用いるなどして開催したものの、対面では幹事が集まる程度に縮小していました。久しぶりに幅広い年代の先生にご参加いただき、楽しい交流ができました。来年度も総会・懇親会に多くの会員のご参加を頂きたいと思えます。  
(文責：野澤聡志)



#### 写真左から

前列：島田陽子（昭46）、三科孝夫（昭46）、古瀬純司（昭59）、平澤晃（昭60）、吉原俊雄（昭53）、西川哲男（昭47）、飯沼克博（昭55）

中列：高山篤也（昭56）、岩田真美（昭61）、大淵徹（平2）、野澤聡志（平2）、玉置正勝（平6）、上野真幸（医3）

後列：飯野貴明（平27）、末永忠広（平11）、武藤剛（平19）、大田光俊（平18）、浅川雅透（平7）、牧野裕庸（平7）、佐藤良祐（医2）  
(敬称略)

栃木県みのはな会

2026年栃木県みのはな会総会が、2月8日（日）に宇都宮のホテルニューイタヤにて開催されました。

前夜からの雪により街が白く染まる中での開催となりました。当日も昼前までは雪が舞っておりましたが、会が始まる昼過ぎには日差しが差し込み、気持ちのよい晴天となりました。足元の悪い状況にもかかわらず、27名の同窓が参集し、若手医師や初参加の先生方も含めた幅広い年代が一堂に会する有意義な機会となりました。

ミラノ・コルティナオリンピックのメダルラッシュの盛り上がりには負けない盛り上がりをもとの会長挨拶、会計報告、監査報告につづき、来賓としてお越しいただきました吉原俊雄千葉大学みのはな同窓会会長（昭53）から、同窓会報告としてホームカミングデーや白衣式の様子などについてご講演をいただきました。県内でご活躍の先生からのミニレクチャーは、自治医科大学外科学講座小児外科学部門の照井慶太教授（平10）から、とちぎ子ども医療センターの紹介とともに先天性横隔膜ヘルニアの診断治療など小児特有の難しい疾患へのやりがいのある取り組みのお話をいただきました。

総会終了後は、千葉大学より宇野隆画像診断・放射線

腫瘍学教授（昭63）をお迎えし「がん放射線治療の見える化—MRリニアックによる即時適応放射線治療—」と題して、最新の放射線治療について特別講演をいただきました。目覚ましい機器の発展と技術の進歩に驚きをもって学ぶとともに、日本のトップリーダーとして同分野を牽引する母校のプレゼンスの高さをお聞きし、同窓として嬉しく、また大変誇らしく感じました。

懇親会は、村野俊一先生（昭50）の乾杯のご挨拶を皮切りに和やかに開宴いたしました。恒例の一人ずつ全員による近況報告では、それぞれの勤務先での取り組みや専門分野の進展、地域医療・教育に関する話題などが紹介され、世代を超えた活発な意見交換が行われました。あっという間に予定の時間が過ぎ、少し名残惜しさもある中、森偉久夫先生（昭51）の中締めにて散会となりました。

雪から晴天へと移ろう冬の日と同様に、会場内も終始温かな雰囲気にも包まれました。同窓のつながりの大切さを改めて確認するとともに、今後のさらなる交流と発展を願う会となりました。

来年もまた、多くの同窓の皆様のご参加を心よりお待ちしております。（文責：森本直樹）



写真左から

前列：森偉久夫（昭51）、村野俊一（昭50）、照井慶太（平10）、吉原俊雄（昭53）、宇野隆（昭63）、森本直樹（平3）、須田啓一（昭52）、川平洋（平4）、足立武則（昭56）

中列：行澤斉悟（平9）、照井エレナ（平9）、池田啓（平9）、戸邊豊総（旭川医大・平1）、三橋暁（弘前大・平2）、知久毅（平1）、左勝則（平18）、石塚満（平3）、荒木則幸（平10）

後列：柿沼薫（平24）、鈴木香合（平25）、神作憲司（平7）、橋場隆裕（平11）、吉住博明（平11）、宍戸忠幸（山梨医大・平8）、金親克彦（秋田大・平12）、廣瀬雅紀（平28）、鎌迫智彦（平25）、村上拳太郎（令4）（敬称略）

## 多摩なのはな会

### 第48回多摩なのはな会

暑い夏が終わってようやく秋らしくなった令和7年11月8日18時から昨年と同じ国分寺駅南口の居酒屋「北海道」で第48回多摩なのはな会が開催されました。

今年は東京都立多摩総合医療センターと東京都立小児総合医療センターに勤務する卒後10年以上の若手中堅ドクター、林先生（平15）・高橋先生（平20）・矢部先生（平23）、ベテランの鈴木先生（昭36）・畔田先生（昭38）・山本先生（昭39）・滝川先生（昭43）、定年延長期の石川先生（昭53）・上田先生（昭53）・松本先生（昭57）が参加されました。残念なことに今回は令和年度卒業生や研修医の若手が欠席となりました。また今年は講演を行わずに気軽に集まることにしました。

鈴木先生の開会の挨拶、乾杯の発声の後、北海道の海

の幸や美味しい鍋料理を食べながらの和やかな会が始まりました。畔田先生から山岳部や柔道部の話、滝川先生からも柔道部の話があり、昔の大学病院を中心とした学生生活の思い出を皆で共有しました。鈴木先生と山本先生からは東京都立多摩総合医療センターの前身である都立府中病院の頃の話が出て、興味は尽きませんでした。

東京都立多摩総合医療センターの高橋先生からはサッカー部の現状と亥鼻グラウンドのナイター照明装置設置への寄付のお願いなどの話が持ち上がり、私も後日振込で寄付をさせていただきました。また多摩なのはな会は第27回から石川先生と私が幹事となり、新型コロナウイルス感染流行のため対面の会合を持てなかった時期を除いて毎年1回開催して約20年経ったことを報告しました。

定刻の20時30分に山本先生の閉会の挨拶・一本締めで会を終了しました。（文責：上田源次郎）



写真左から

前列：畔田浩（昭38）、鈴木光（昭36）、山本弘（昭39）

後列：松本潤（昭57）、滝川弘志（昭43）、上田源次郎（昭53）、石川てる代（昭53）、林達也（平15）、高橋誠（平20）、矢部清晃（平23）（敬称略）

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら当会にもご一報ください。

電話 （043）202-3750

FAX （043）202-3753

e-mail：info@inohana.jp

## ク ラ ス 会

### さんろく会 (昭36)

10月19日開催しました。今年から会場を広さや駅からのアプローチを考慮して、上野精養軒から四ツ谷駅前のプラザーエフ（旧主婦会館）に変えました。

参加者は5名でした。常連の野本一夫さんが初夏に亡くなられ、久しぶりに参加予定の小池宏之さんがリハビリのため参加できず、長谷川幸子様のご葬儀のためご主人の修司さんが欠席され、少数になりました。昨年のクラス会以後の鬼籍された方は田部井徹さん、新井一夫さん、宮代道子さん、川村孝子さん、野本一夫さん、長谷川幸子さん、さらにクラス会開催後に通知が届いた岡田信道さんの7名です。（これは実数ではなく情報を入手した数です。）ご冥福をお祈りいたします。

会場参加者数は極めて少数でしたが、恒例の「近況報告」は19通でこちらは健在でした。

クラス会最盛期の「表紙付き、写真付きの」という豪華版ではありませんが、「返信ハガキのコピー集」でも通信機能としては同じと思います。90歳前後になりましたが、生存者の3分の2の方が参加されました。価値あります。

会場で顔を合わせるまでは、来年も開催できるか不安でしたが、会ったら全員が来年も開くということになりました。

来年の幹事は鈴木光さんです。

歩ければ会場に、ペンが取れば「近況報告」の投稿を願います。また来年を楽しみにしております。

（文責：黒田健昭）



写真左から：鈴木光、野尻雅美、副島訓子、三宅伊豫子、黒田健昭

（敬称略）

### 昭和38卒クラス会

今年の昭和38年卒クラス会は2025年10月18日に芝公園にある「とうふ屋うかい」で開催されました。参加者は同級生が15人、亡くなった同級生のご夫人2人、同伴夫人3名で合計20人でした。

冒頭、世話役筆頭に加藤友衛君の司会でこの一年間に亡くなった中田瑛浩、大木勲、松井宣夫の三君を偲んで黙祷した後、畔田浩君の音頭で乾杯、暫し歓談の後、各自の近況報告に移りました。

長山忠雄君は館山と鴨川の間にある和田町の病院で週一回泌尿器科医として勤務しているとのこと、鳥羽剛君は仕事はやめたが皆さんとお会いできることを楽しみにしていること、同席された奥様のさち子様からは足を痛めているご主人を労わる気持ちが述べられました。

楯二郎君は開業した当時のことなど、自分一人で苦勞してやってきたことを思い出す、香西襄君は年々体が動かなくなりゴルフもクルマもやめた、ゴルフは家内と続けていると話し始めた加藤君からは、連絡があった大

木、松井両君の葬儀にクラス会一同として弔電・生花を贈ったこと、長年会場としてきた「とうふ屋うかい」が来年3月で閉店することから次の会場をどうするかとの話がありました。

大津裕司君は昨年で医者をやめ、今は大東亜戦争を始めたワケを調べているのと自分所有の古書の処分をどうするか、また、料理の研究もしているそうです。木下昌君は今日ここに来て改めて皆より少しでも長生きをしようという思いを強くした、菌部和子さんはコレステロール値が高い以外何も心配することはなく皆さんに感謝している、木下（石田）敏子さんからひ孫が生まれたことと一年前からピアノの練習を始めたことの報告。

三木亮君は脊椎圧迫骨折でコルセット装着中だが、たいしたことをやってきたわけではないけどここまで何とかやってきました、畔田君は3年前に奥様を亡くし、現在は孫の大学受験で昔のことを思い出している。玉置哲也君は大木君の病状の悪化を知り京都でのシンポジウムを中座して栃木県小山市に駆け付け、声も出ない耳も聞こえない大木君と長いこと筆談で語りあったこと、名古

屋での松井君の告別式にも出たとの報告があり、加齢的サルコペニアに関する「整形外科」誌掲載論文別刷を全員に配布した。

なお、小山での大木君の葬儀には、玉置君、香西君、三木君と加藤君が参列されたとのこと。

宮下久夫君は中学、高校の同期会は全て終わりこの会だけが残っていて、来年のために次の場所を探して欲しいとの意見。浅野尚君は90歳を超えて活躍されているフラメンコダンサー小松原庸子を例に自分ももう少し頑張りたいと述べ、後日朝日新聞連載の彼女の記事が拙宅に送られてきたが紹介は割愛します。同級生の最後に立った私は、千葉県生涯大学校に数年通って野菜と花を勉強し自宅近くの畑を借りて野菜栽培を続けていることを報

告しました。

続いて、22年前にご主人を亡くされた故原紀道君夫人の和様、長野から参加した18年前にご主人を亡くされた故野本高志君夫人の美知子様からそれぞれ感謝の言葉があり、加藤夫人、和歌山から参加の玉置夫人からもこの店が終るのは寂しいとの話がありました。

写真撮影の後、会としては散会しましたが、10名以上の有志が喫茶室に残って珈琲を飲みながらの歓談が続きました。

皆さんの今日の話聞き文章にして、卒業後62年を超えて多くの仲間たちが自分なりの新しい姿に落ち着いて来ているという思いをもちつつ、来年の再会を願って筆を擱きます。  
(文責：谷修一)



写真左から

前列：加藤友衛、鳥羽剛夫人、鳥羽剛、木下昌、三木亮、楯二郎、大津裕司、菌部和子、木下（石田）敏子、香西襄

後列：故野本高志夫人、故原紀道夫人、玉置哲也夫人、加藤友衛夫人、畔田浩、谷修一、宮下久夫、長山忠雄、浅野尚、玉置哲也  
(敬称略)

## 参 旧 会 (昭39)

### 昭和三十九年卒業生同期会・参旧会開催の報告

私達昭和39年卒業生の同期会は39年に因んで参旧会と名付けられ、会員は親しみと誇りをもって卒業以来コロナ禍の数年を除き60年間毎年集いを進めてまいりました。令和7年度の集りは会員の高齢化を配慮して交通の便と駅からの歩行距離さらに余り混まない週日の昼の開催を決めました。東京駅から徒歩1分の丸の内ホテル内の加賀料理大志摩椿寿に会場をお願いし11月6日の昼12時から14時まで例年通り同伴の夫人方も交えて16名が参集いたしました。「お孫さん連れ大歓迎」というふれ込みでしたが流石に週日の昼とあっては爺・婆に付き合ってくれる若者の参加はありませんでした。併しこの方針は今後も続く予定です。

参旧会の中心メンバーであり私達の間で存在感の大きかった遠藤毅君、大塚嘉則君、本村八恵子さんの3名が過去1年の間に相ついで他界された事は参旧会の中に一

株の喪失感をもたらす事になりました。会の開催に先立って参加者全員が黙祷を献げ故人のご冥福を祈りました。

食事は流石に加賀料理とあって美味でありました。会食を進めながら参加会員一人ひとりが近況報告を開示しました。酸素吸入器を装着した状態で参加した会員も居りましたが自己の健康状態に就いて長々と話す人は居らず8歳の後半に至った全員の健在ぶりを互に確認し合う会となりました。

特に皆が関心をもって傾聴した話は何年ぶりかで参加した高澤博君の滝澤延次郎教授導いる第一病理学教室に入局した当時の思い出でありました。滝沢教授は人も知る厳格な病理学者で特に一人ひとりの学生に対し容赦ない面接試験を行なう事で、先輩、後輩ともに恐れられていた教授でありました。滝沢教授の教授する病理学はタキ・パトと呼ばれておりましたが、タキ・パトの試験を一回でパスする学生はそれぞれの学年で3分の1程、残りの3分の2の学生は次の試験期日を待って再度タ

キ・パトの試験にチャレンジしなければなりません。何回もやり直しを余儀なくされる学生も決して少なくはありませんでした。タキ・パトの試験対策は試験が近づくと連夜下宿等集って進められ深更に及んでおりました。

高沢博君はこの様な厳格な教授が主宰する病理学教室を選んで入局したため、クラスメートの尊敬を買っておりました。入局当時から60年近く経った令和7年の参旧会で若い高沢君の体験したエピソードの披露は参旧会メンバー一同の聴き入るところとなりました。

滝沢教授と並んで私達に病理学を教授して下さった第二病理の岡林篤教授と滝沢教授との間に交されたエピソードの紹介なども一同興味深く聴きました。岡林教授はアレルギー学・免疫学に独特の知見を提示し滝沢教授とともに日本の病理学界の泰斗であり教室の中から世界をリードする免疫学者が輩出されました。この様な先生

方の教えをいただいた私達は医学の基礎的バックボーンを否応なしにたたき込まれ、お陰で後期高齢者といわれる年齢に達した今でも何事かの仕事を担当させていただける事を感謝とともに思い出す会となりました。

現在教育を担当する教員が一般的に見て（大学に限らず）非個性化に傾いていく傾向が折に触れて散見される時代にある様に思われてなりません。私達の学生時代に私達を強い個性と信念をもって導いて下さった恩師の様な教育者が次第に陰をひそめるような時代を迎えているような気が致します。AIの導入などが医学の世界でも現実となりつつある時に滝沢教授の様な強い個性と信念をもって学生に対して下さった恩師の姿をかえりみる機会ともなった令和7年の参旧会でもありました。令和8年参旧会での再会を誓って散会となりました。

（文責：令和7年参旧会幹事 深尾立・鈴木守）



写真左から

前列：碓井貞仁、山本清子夫人、川西恭子、深尾礼子夫人、鈴木弓夫人（昭和41年卒）  
万本左紀子夫人

後列：深尾立、高沢博、上原朗、伊藤晴夫、山本弘、崎山樹、今野貞夫、万本盛三  
山下武広、鈴木守

（敬称略）

## お知らせ

みのはな同窓会事務局では、卒業年次別クラス名簿リスト、地域別会員リストおよび郵送用住所ラベルをご希望により作成いたします。詳細は同窓会事務室にお問い合わせください。

## 昭和39年卒クラス会 (参旧会) 稲毛海岸の会

### 昭和39年卒クラス会 (参旧会) の地区版である稲毛海岸の会

2026年1月15日にホテルニューオータニ幕張に於いて上記の会が開かれました。稲毛海岸の会は山下武広君が相当前に立ち上げ長い間続いてきました。最近になりましてメンバー数人が病に倒れたり、亡くなられた為に近くの同級生にも声を掛け、今回の開催となりました。昭和39年卒ですので皆さんは80歳代も後半です。従いまし

てクラスで生存しているのは半数以下ではないでしょうか。その中で地区の会に5名という人数は良い方ではないでしょうか。クラス会以外で久しぶりの会でしたが、懐かしさに溢れ、楽しい会となりました。健康や趣味、家族など共通する話題も多く、日頃の思いを吐き出してすっきりする気分にもなりました。

仕事を続けているのは2名のみであり、時代の進歩？に戸惑うことも多いこの頃ですが、皆さんは前向きに生きていることが分かりました。(文責：伊藤晴夫)



写真左から：碓井貞仁、伊藤晴夫、崎山樹、山下武広、今野貞夫

(敬称略)

## 42-48クラス会 (昭42入学・昭48卒業)

令和7年10月19日、ポートプラザホテルちば(千葉みなと駅近)にて1年半ぶりに開催しました(出席33名)。開宴に先立ち、鈴木洋文君のご冥福を祈り黙祷を捧げ、徳久剛史・元学長の挨拶で会が始まりました(急用で欠席され司会者がメッセージを代読)。大学病院の再開発、医学部棟の新築移転の経緯とそれに伴う教育研究機能の発揮状況が報告されました。ただ財政投融资借入れ状況と大学病院の苦しい台所事情にも触れられ、結果として、思い出深い旧医学部本館の将来像は見えないままとのことでした。続いて河野陽一・元大学病院長の挨拶と乾杯の御発声で食事開始となりました(食事中、小川富雄君が演奏：バッハ作曲無伴奏チェロ組曲第一番プレリュード)。

今回は、あらかじめ皆様の近況を郵送して頂き(特に過去の業績・思い出や未来への思いを込め)、文集として配布。御寄稿のトップは大橋教良君で、第二内科から、阪大特殊救急部、筑波MC救急担当部、帝京平成大学救急救命部教官を歴任され、未発達だった系統的救急医学の発展に尽くしてこられた人生をご報告いただきました。蛭名洋介・徳島大学名誉教授からは、千葉大学生化学教室・院修了後、ハーバード大学、カリフォルニア大学で研鑽、ヒトインシュリン受容体cDNAクローニングで大ヒットの業績(橘教授のコメント)を修めた歴史を綴って頂きました。のちの千葉大での講演の際に筆者

(後藤)が熱心に聴いていたのを記憶しているとの記述に答え、返信メールで筆者の大学教官時代のOPLL研究(雑誌SPINEや雑誌NATUREへの投稿など)にも触れさせて頂きました。大場敏明君からは、近著「コロナ禍の認知症医療とケア」の紹介を寄稿して頂きました。

今回のクラス会の第一セッションでは、御参加の方々に近況を報告頂きました(欠席者の短信も通覧し)。身体の衰えの声の一方で、医師、研究教育者として、我ら良くやって来たなあ、そして最前線の役目を終えた今こそ患者に寄り添った丁寧な医療ができるとの声もありました。筆者も全く同感です。元気な話題もいっぱいでした：やり残した医学論文を書き上げたい、経済誌に医療経済論考を連載中と。フルマラソン・百名山登山挑戦中と。つい最近ホールインワン、有馬記念馬券大当たりしたと。第二セッションでは同級生(梅田透：ピアノ、小川富雄：チェロ、後藤澄雄：ウクレレ、野口哲夫：サクソ)4人でバンド演奏を披露しました。私共団塊の世代は、戦後80年の平和を最も享受し、大学卒後は真実の尊さを信じ、学問にも微力を尽くして来ましたが、近年は未来に不安を抱くことも多々生じております。今回の選曲は、第一曲：第一次大戦時に生まれた「ダニーボーイ」、第二曲：ウクライナゆかりの「ひまわり」、第三曲：昭和レトロの「見上げてごらん」等を演奏させて頂きました。次回の幹事：白井厚治、金井英夫、末石真君達のもと、2027年春、また皆様にお会いできるのを楽しみにしております。(文責：後藤澄雄)



写真左から

前列：後藤澄雄、中村孝雄、伊藤よしみ、大内美南、保阪亜莉沙、河野陽一、千葉次郎、片桐博子、内田宏子、岩田泰子、千見寺ひろみ、小川富雄  
 中列：川口英昭、高圓博文、菊地紀夫、南昌平、高安賢一、安野憲一、小林道生、浅野誠、梅田透、野口哲夫  
 後列：金塚東、白井厚治、金井英夫、山田均、大橋教良、大場敏明、野村馨、遠藤信夫、竹中正治、末石真 (敬称略)

#### 417クラス会

令和7年11月30日(日)、秋色深まる京成ホテルミラマーレにて、昭和41年入学クラス会を開催いたしました。今回は西野卓君と私の二人で幹事を務めさせていただきましたが、準備にあたり、まずはクラス全員に近況報告をお願いいたしました。当日、それらをまとめた資料を皆様にお配りすることで、欠席された方々の歩みにも思いを馳せつつ、旧交を温める場といたしました。

当日の出席者は、以下の19名です(敬称略)。

浅野誠、伊藤文憲、猪股弘明、榎本貴夫、大川(飯

塚)玲子、大西久仁彦、大橋浩文、大場敏明、菊池友充、執行一範、鈴木信夫、鈴木光二、外岡正英、豊田敦、長尾啓一、中嶋征男、渡辺滋、西野卓、西川哲男  
 正午、西野君の開会宣言と再会の挨拶により開宴。まず、平成29年1月の前回開催以降に惜しくも帰らぬ人となった、向井稔、中村勉、鈴木明、田中隆二、鈴木洋文の5氏に対し、深く哀悼の意を表して全員で黙祷を捧げ、往時を偲びました。

その後の乾杯とともに始まった祝宴は、美味しい料理を囲んでの賑やかな歓談の場となりました。かつては血気盛んだった我々も、今や等しく年を重ねました。会計



写真左から

前列：渡辺滋、豊田敦、伊藤文憲、西川哲男、浅野誠、大川(飯塚)玲子  
 後列：長尾啓一、執行一範、猪股弘明、中嶋征男、鈴木信夫、大西久仁彦、鈴木光二、大場敏明、菊池友充、大橋浩文、外岡正英、西野卓 (敬称略)

を担当した私が請求明細に目を落とすと、ビール12杯、ウーロン茶9杯という数字が並んでおり、かつての勢いを知る者としては微笑ましくも、互いの健康を慈しみ合う穏やかなひとときを象徴しているようでした。

宴の最中、全員に近況を語ってもらいましたが、今なお臨床の第一線で仕事に邁進し、日々の診療を楽しんでいる学友たちの姿には、大いに勇気づけられました。ま

## 八〇会

1980年（昭和55年）卒の54名が、2025年11月14日にホテルマンハッタン幕張に集まりました。5年毎に集まる予定でしたが、コロナ禍もあり10年ぶりの再会となりました。

準備の中で“名札”を用意しましょうかと話題に出ましたが、なくても大丈夫でしょうと用意しませんでした。今まで名札の必要性を感じませんでした。今回は受付でお互いに名乗らなければ分からない場面が何回もあり、この10年間の歳月の重みを痛感しました。お互いに外観も変わりましたがどなたか分かってもすぐに名前が出てこないという二つの要因のためでした。次回は、首から大きな名札を掲げるのが良いかもしれません……

会は、この10年間に鬼籍に入られた羅智靖さん、市川崇さんを忍び物故会員へ黙祷を捧げ、乾杯、歓談へと続きました。

今回は対面での会話を楽しみましよう、できるだけ

た、浅野・大場両君からは研鑽の結晶であるご著書の寄贈という嬉しい一幕もありました。

最後に私より当日の会計報告を行い、次回の再会を固く約して散会いたしました。医学の道を共に歩み続ける仲間との絆を、改めて強く実感する一日となりました。

（文責：西川哲男）

け“おしゃべりタイム”を長くして、全員の口頭での近況報告は取りやめました。事前に集めた近況報告を出席者、欠席者共に送信し、テーブルの上にも近況を印刷した冊子を用意する二本立てにしました。近況報告は今までの思いの詰まった力作があり、立派な冊子になりました。“おしゃべりタイム”は、盛り上がり、テーブルで隣同士に座って話し込んだり、会場のあちこちで輪になって話し込む姿がみられました。2時間という限られた時間内ではとても語り尽くせず残念でした。

会の中頃、佐々木淳一さんによるフルート演奏がありました。演奏しながら、結婚式披露宴のキャンドルサービスながらに各テーブルを踊るように回る熱演に拍手喝采でした。

最後に八〇会の今後を見据え、メーリングリストを作成し会の省力化継続を目指すことにしました。そして2年後の再会を願って散会になりました。歳月の優しさと厳しさを感じたひとときでした。 （文責：氷見京子）



写真左から

前列：出沢明、諸田英夫、丹羽淳子、吉永勝訓、米田洋子、古賀和子、榊原誠、廣田勝太郎、氷見京子、青墳裕之、亀井太美子、伊藤順一郎

中列：佐々木淳一、栗林伸一、松井英雄、中島浩志、杉原茂孝、久木田親重、砂田荘一、松山泰久、石川広己、遠藤弘良、十川康弘、藤田明、橋本尚武、氷見寿治

後列以降：潮平芳樹、峯清一郎、村山博和、松尾浩三、土田豊実、湯口恭利、須藤義夫、眞田孝裕、石橋巖、栗原和男、佐藤慎一、深澤一雄、沖田伸也、土屋恵司、宇田川郁夫、岡野達弥、有我隆光、和田清、神崎哲人、伊藤千秋、宮崎三忠、戸島洋一、植松武史、田中篤、大崎達也、中村博敏、野田和男、平賀幸弘（敬称略）

**千葉医平成ゼロヨン会  
(平成4年卒)**

令和7年9月23日、秋分の日の澄み渡る空の下、東京・丸ビル35階「レストラン ヒロチェントロ」において、平成4年卒業生による同窓会を開催いたしました。学年全体での同窓会は2017年以来となり、未曾有のパンデミックを経て、46名の同級生が一堂に会しました。併せて、下記4名の教授ご就任を祝する会を催しました。

加藤里絵教授（昭和医科大学医学部麻酔科学講座）／櫻井健一教授（千葉大学予防医学センター）／潤間励子教授（千葉大学総合安全衛生管理機構）／樋口佳則教授（千葉大学大学院医学研究院脳神経外科学）

幹事の高瀬一嘉、真村瑞子による開宴の辞に続き、千葉大学分子病態解析学講座 田中知明教授の乾杯のご発声をもって、会は和やかに始まりました。東京駅周辺の再開発により一新された眺望と、季節感あふれる美食を堪能しながら、旧交を温めるひとときとなりました。

参加者全員がマイクリレー形式で近況報告を行い、医

療・医学の現場での精力的なご活躍や、家庭におけるお子様の成長、お孫様との微笑ましいエピソード、懐かしい思い出や趣味の話題など、多彩な話に花が咲きました。

また、2024年にNHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」から取材を受けた安福和弘教授（Division of Thoracic Surgery, University of Toronto）からの祝辞朗読に続き、4名の新任教授方のショートレクチャーを行いました。パンデミックなど数々の困難を乗り越え、医学教育・研究・臨床における今後の展望についてお話しいただき、参加者一同深い感銘を受けました。

閉会にあたり、自治医科大学メディカルシミュレーションセンター長・医学部外科学講座消化器外科部門川平洋教授によるご挨拶、集合写真撮影、手締めをもって、盛会のうちに幕を閉じました。

なお、今回の同窓会では、参加者全員に加え、残念ながらご欠席となった同級生からも御芳志を賜り、祝賀記念品を4教授に贈呈し、一部を千葉大学みらい医療基金に寄附いたしました。（文責：真村瑞子、潤間励子）



**写真左から**

- 1列目：太田詔、高瀬一嘉、田中知明、樋口佳則、潤間（渡辺）励子、櫻井健一、加藤里絵、川平洋、真村瑞子、有井（松林）潤子
  - 2列目：稲葉（生月）元子、播磨（毛利）あかね、椿原（中本）裕美、澤井まゆみ、YODER（山口）公子、奥村（山田）恵子、中澤（石川）伸子、浦野美晴、須藤英文、磯部公一、加藤佳瑞紀、藤田耕司
  - 3列目：山本正二、菊岡修一、亀高尚、鈴木一雅、池田雄次、相庭温臣、三橋繁、富田和弘、窪田剛実、西谷慶
  - 4列目：白石博一、貞広智仁、井上淳、遠藤恒宏、飯田智彦、永谷憲歳、山崎健也
  - 5列目：平野達也、吉田克彦、小宮顕、矢花孝文、山本雅史、伊藤雄一、木村真二郎
- 御芳志（欠席者）：渡邊博幸、阿部雄造、石井敦、稲川直浩、梅澤正美、江越賢一、大西洋一、緒方直史、黒田央文、小泉健一、獅子原（藤田）薫子、清水弘則、辛太廣、中澤健、中山（蔡）学、服部祐爾、原竜介、三田（寺本）奈津子、谷嶋隆之、矢島利高  
(敬称略)

## 準硬式野球部 OB・OG会

2026年2月21日京成ホテルミラマーレ16階にて、初回となる準硬式野球部OB・OG会を開催した。今回は、長年同野球部顧問を長年務められた高林先生の声掛けで実施できた。残念ながら数年前に同野球部が廃部となったが、ともに準硬式球を追った仲間が久しぶりに集った。大嶋望先生の司会のもと、呼びかけ人代表の高林先生の挨拶で開会した。準硬式野球部開設当時の話や、第1期黄金時代の話や野球場消滅に関するエピソードなど初めて聞く話ばかりであった。その後山梨から参加された小俣先生からは、乾杯の挨拶に合わせ、野球グラウンドがあったからこそその学生時代の話や、医療経営の今後のあり方を話された。「研究も経営も同じ」との小俣先生の言を以前誰かから聞いていたが、スピーチ後ご本人に筆者から直接確認させていただくことができた会であった。“research mind”なくしては今後の病院は成り立たない時代なのであろう。

しばし参加者が歓談した後、参加者の中で山岸先生、潮平先生、後藤先生、新井先生、松谷先生、田村先生から野球部時代の悲喜こもごもの話や近況などを報告してもらった。その間には、OG代表として医学部附属病院の箭内看護部長からもスピーチをいただいた。合宿などで部員が多なお世話をいただいた高根先生には、学生時代のお言葉をいただいた後、これまでの感謝の意を表して花束を贈呈した。その後大先輩の安田先生がご自身の電気生理学的研究として最近発見された、「交感神経は排尿に関して単に抑制するだけではなく、副交感神経と協調して排尿を促す」という新説をご披露された。交感神

経 (sympathetic nerve) とは、迷走神経と第一頸神経節とが働きを分かち合う」とローマ時代のガレノスが考え提唱した「歴史的」名称とされる。安田先生の研究への情熱がその語義通り「共感」できたミニレクチャーであった。

参加者全員の喜びの時間はあっという間に過ぎてしまった。さまざまな料理と飲み放題のお酒、勝手気ままな談笑など宴たけなわの中で、総勢63名 (OB 48名、OG 15名) もが参集できた。予定時刻が近づいたため、筆者の閉会の挨拶でお開きとなった。参加者全員の集合写真を撮影後、散会とした。準硬式野球部がいつの日か「renascence (再生)」することを心から願う。

参加したOB名は、学年順に安田耕作 (昭42)、高根宏 (昭44)、小俣政男 (昭45)、高林克日己 (昭50)、山岸文雄 (昭50)、岡田修 (昭54)、杉田克生 (昭54)、潮平芳樹 (昭55)、橋本尚武 (昭55)、岡嶋良知 (昭58)、後藤茂正 (昭58)、日野剛 (昭58)、星誠一郎 (昭58)、安蒜聡 (昭60)、鈴木隆弘 (昭61)、村上康二 (昭61)、新井健三 (昭62)、飯田哲 (昭62)、加藤大介 (昭62)、佐藤圭一 (昭62)、池之上純男 (昭63)、高梨潤一 (昭63)、吉岡茂 (昭63)、鹿間毅 (平3)、首藤潔彦 (平3)、白石博一 (平4)、伊達太郎 (平5)、廣瀬晃一 (平5)、増田真一 (平5)、赤井崇 (平8)、大塚正史 (平8)、黒田泰久 (平8)、平出朋 (平8)、桜井学 (平10)、松谷智郎 (平11)、萬納寺誓人 (平11)、宮下智大 (平11)、早野康一 (平12)、鎌谷洋一郎 (平14)、神田真人 (平14)、高橋健太郎 (平15)、山中義崇 (平15)、木本龍太 (平18)、砂原聡 (平19)、細川淳一 (平19)、大嶋望 (平28)、塩谷優 (平31)、田村有 (令3) である。

(文責：杉田克生)



### 集合写真の氏名掲載につきまして

これまで、お写真には全員の氏名を掲載してまいりましたが、プライバシー保護の観点や、先生方の原稿執筆のご負担を考慮し、お写真と原稿のみのご提出でもお受けいたします。また従来通り氏名リストを添えていただく形でも問題ございません。ご事情に合わせた形式でご寄稿いただければ幸いです。

今後とも投稿のご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

会 員 か ら

43卒、K. T. さん  
ミセスオブザイヤー、グランプリ獲得と  
82歳の現役女医が実践する「病まない老けない生き方」を上梓

北 原 宏 (昭43)

みのはな199号クラス会報告にK. T. さんがミセスオブザイヤー日本大会出場その後世界大会に進むと書いたところ、編集部から紹介をとの投稿依頼を受けました。

K. T. さんは6年前両側股関節に人工関節置換術を受け、リハビリのためウエイトトレーニング開始、トレーナーさんの勧めでミセスコンテストの世界に。自身のリハビリのため始めたところ若い方ばかりでした。そこで“同じ病に苦しむ方々や、もう歳だからと諦めている同年代の方々に「勇気と希望を届けたい」”思いを発信するため、ミセスオブザイヤーコンテストEternal部門に出場し、千葉大会を経て日本大会に進みました。会場は新宿住友ビル広場、大会場のランウェイをシニアモデルとしてドレスを纏い16cmのハイヒールで観衆に向かいゆっくりと歩き、優雅な佇まいを披露し、その後1分間の出場に込めるスピーチを語り、見事にプレゼンテーションが終わり、結果を待つのみ。応援団の方々とかたずをのんで発表を待ちましたが、なかなかコールされない、どうしてかと思いきや、最後にシニアグランプリに輝き、大会長からティアラを着けてもらい(写真1)会場からも応援団をはじめ盛大な拍手を受け、なかなか止みませんでした。両側人工股関節全置換術、一念発起して、体力の維持、強化を図りより楽しく生きる事を目指してトレーニングに励み、シニアモデルとして日本大会でグランプリを獲得したことで、後は今年6月の世界大会に向けて更なる高みに向かい、日々精進を重ねている由、同級生ながら誇りに思います。



写真1

そのK. T. さんが2025. 12. 主婦と生活社から82歳現役女医が実践する“病まない、老けない生き方”(写真2)を上梓したので内容を記します。

- ・何かを始めるのに遅すぎることはありません。
  - ・健やかに美しく年を重ねる習慣を今は出来ることから始めて下さい。
  - ・未来の自分の為に。
- 「体も心もご機嫌に過ごす53の知恵」で女性の人生後半を元気に過ごすヒントが満載。
- ・何歳になっても自分の足で歩きたい。
  - ・老け込まず、軽やかに年を重ねたい。
  - ・第2の人生を自分らしく生きたい。

これらの事が、現役女性医師としての臨床経験を基に、女性の各種疑問に答えるように専門家として丁寧に解説し対処法にも言及し、読みやすく、理解しやすい内容となっている。

項目は

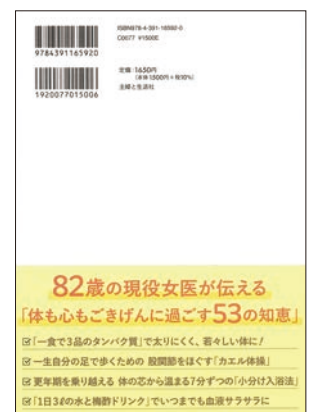
- ・美しく老いる体づくりのヒント
- ・女性のゆらぎと上手に付き合うヒント
- ・がんばらない“タン活”が一番、食事のヒント
- ・ストレッチと食事のヒント
- ・健やかな精神を保つためのヒント

この本書の意図は、主に女性向けの後半生の生き方、食事、栄養のとり方、エクササイズの方法について書かれている。男性読者にも、栄養、食事について経験に基づく写真付き簡単レシピの提示と、容易に出来る運動もイラスト入りで書かれており参考になる一冊です。

ぜひ手に取り、出来ることを実践し後半生を楽しく元気に生きるよう指針として欲しい一冊です。



写真2



ゐのはな同窓会所蔵資料について

千葉大学工学部建築学コース教授 顥原澄子 工学部4年 武藤 歩

千葉大学建築学コース顥原澄子研究室では2023年6月からゐのはな同窓会が看護学部棟地下一階倉庫に収蔵している資料の整理を行っています。資料はおよそ大正・昭和にわたる期間に作成された、千葉医科大学から千葉大学医学部に関する文書および図面資料から成ります。資料整理にあたっては、国際標準アーカイブズ記述第二版（General International Standard Archival Description Second Edition：ISAD（G）第二版）を参照し、資料を群として把握し、階層的（フォンド／シリーズ／サブシリーズ／ファイル／アイテム）に資料を構成する形式としています。整理の結果、図1のような資料の編成とな

りました。国有財産関係書類や概算要求に関する文書資料のほか、建築図面としては、美濃紙に描かれた原図、青焼・青図、青焼製本などが含まれます。建物の図面は設備図面が多く、建物の維持管理のために残された図面であったと思われます。現存する旧千葉医科大学附属病院（1936年）や旧精神科病棟（1927年）のほか、現存しない千葉医科大学本館や伝染病棟、法医学教室、看護婦宿舎などの図面はほぼ一式揃っています。同窓会館1階和室にて保管されている資料とあわせて、今後、皆様に活用していただけるよう目録の公開準備を進めていきたいと考えています。

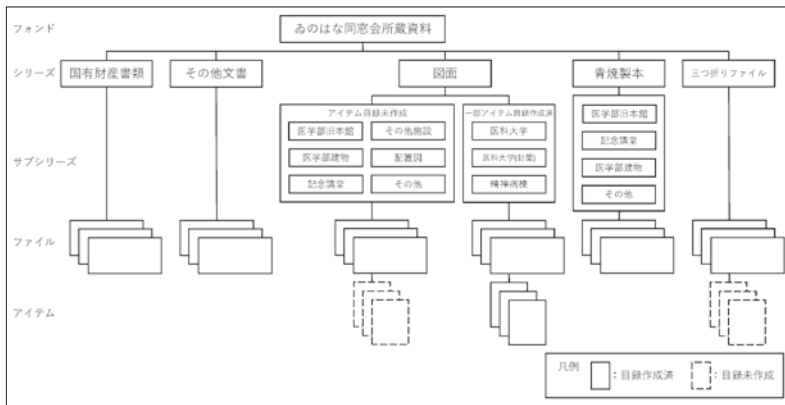
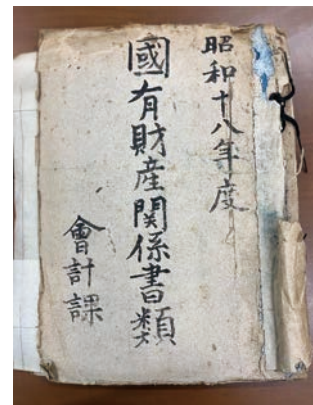


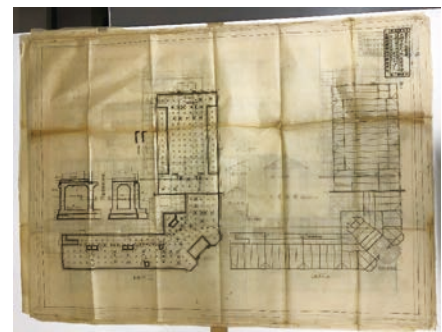
図1 資料の編成



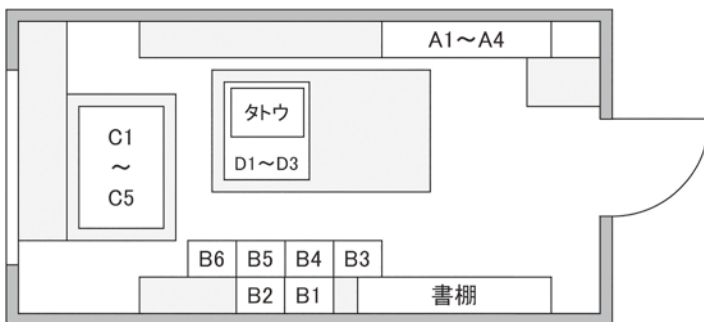
国有財産関係書類



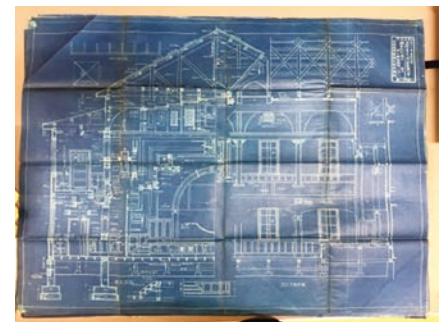
看護学部地下1階倉庫の保管状況



千葉医科大学本館平面図（原図）



看護学部資料保管場所 見取図



千葉医科大学本館講堂矩計図（青図）

欧州医学史巡り

わが子に種痘するジェンナー像? —ジェノヴァ

杉田克生 (昭54)

ジェノヴァはミラノの南145kmに位置する。ミラノから列車で1時間半ほどの距離である。ミラノからジェノヴァまでの車窓はロンバルディア平原特有の霧に常時つまれ、特にパヴィアあたりは霧が深く、冬は自動車が通れなくなることも多い。ジェノヴァのプリニョーレ駅から各駅列車で東に2つほど行ったネルヴィの近代美術館 (Galleria d'Arte Moderna) に、モンテヴェルディ作ジェンナーの大理石像が置かれている。よく書籍などで見慣れた像で、「ジェンナーが息子に種痘をしている像」と説明にある。

ジェンナーが初めて種痘 (すなわち牛痘ウイルス) 接種したのは1796年、8歳のジェームズ・フィップスであ

る。日本ではジェンナーを崇めるあまり、自分の息子を種痘実験に使ったという美談を捏造し、むかし日本の修身の時間にはジェンナーが我が子に注射をする場面の挿絵にこの像が示されてきた。実際にはジェンナーはフィップスへの接種7年前の1789年に、自分の子エドワード (10ヵ月) と2人の少女の腕に、当時“豚痘”と呼ばれた小痘瘡ウイルス (=variola minor virus) を接種している。その後この3人に対し、天然痘 (=variola major virus) の膿をうえつけたが、痘瘡ができず天然痘を予防できた。なおややこしい話であるが、当時“豚痘”と称した病気は、豚とは関係なく人の“小痘瘡”すなわち天然痘の軽症型であることが判明している。

そのジェンナーの種痘法だが、実際は危ない人体実験であった。「牛から牛痘をうつされたことのある人は天然痘にかからない」という土地の人々の言い伝えから発想したが、天然痘はヒトのみが感染するため動物実験で確かめるわけにはいかなかった。サラ・ネルメスという乳搾り女が、ブラッサムという牛から牛痘をうつされた。ジェンナーは迷いに迷った末、人体実験を決行した。サラの手にできた膿疱の液を8歳の少年、ジェームズ・フィップスの腕に接種した。そして1ヵ月半ほどして、ジェンナーはフィップスに、本物の天然痘患者の膿疱液を接種した。フィップスは発病せず、人類初のワクチン療法 (=種痘) が成功した。この種痘実験をするためにジェンナーは、貧乏人の子どものなかからフィップスを探し出した。フィップスが発病しなかったことにほっとしたと思われるが、ジェンナーはフィップスに感謝と後ろめたさを感じ、小さな家を買って与えて、生涯なにくれと世話をしたとのことである。



モンテヴェルディ作 ジェンナー像

みのはな同窓会支援

第19回ちばBasic and Clinical Research Conferenceが開催されました

みのはな同窓会理事・副会長 安西尚彦(平2)

令和8年1月29日に、みのはな記念講堂とZoomとのハイブリッド形式で「第19回ちばBCRC」が開催されました。ちばBCRCは、医学部生のリサーチマインドを涵養することを目的として、スカラシッププログラム(研究室配属)の研究成果を発表する場であるとともに、例年医学研究院の基礎と臨床の教室からそれぞれ1名の教授による研究室紹介、そして特別講演などの全ての企画が、有志の学生事務局員により企画・運営されています。

今回の参加者は学生371名、教員・来賓等21名で、学生座長の司会で6題の学生発表が行われました。今回も昨年同様CommentScreenというZoomを利用したオンライン会議にリアルタイムで参加可能なツールを用いて学生が気軽に質疑応答を行えるようにしました。

研究室紹介は、基礎からは機能形態学 山口淳教授が『機能形態学の紹介—歴史と研究—』というテーマで、臨床から脳神経外科学 樋口佳則教授が『脳神経外科手術と科学の融合』というテーマでお話をされました。

本橋新一郎副医学部長の熱のこもったご講評を頂きました後、スカラシップ賞に続き、吉原俊雄同窓会長からみのはな同窓会賞の表彰が行われ、ちばBCRC最優秀賞の授与が行われました。今年之最優秀賞は発表人数



が多かったことから2名に授与されました。

最後の特別講演は本会世話人である災害治療学研究所教授の小野寺淳先生の座長のもと、理研/医学研究院細胞分子医学教授の古関明彦先生により『From mouse to human』というタイトルで行われ、千葉大学医学部を卒業してから3名のメンターの先生に導かれて行った様々なご研究について、ご自身のご体験を踏まえ大変教育的なお話をいただきました。

みのはな同窓会支援

第19回ちばBCRC最優秀賞を受賞して

医学部6年 野村 安里

このたび、第19回ちばBCRCにて最優秀賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。大会運営に尽力して下さった事務局の皆様と、ご支援いただきましたみのはな同窓会の皆様に深く御礼申し上げます。

本研究では「腫瘍反応性T細胞受容体発現NK細胞療法の開発」をテーマとし、汎用性に優れるNK細胞にT細胞受容体(TCR)遺伝子を導入することで抗原特異性の向上を図り、その抗腫瘍効果を検証しました。当教室が研究しているNatural Killer T細胞(NKT細胞)の免疫活性に着目し、腫瘍細胞・NKT細胞・末梢血単核球をex vivoで共培養することで腫瘍反応性TCRを誘導し、これをNK細胞へ導入してTCR-NK細胞を作製しました。その結果、TCRおよびCD8を発現させたNK細胞は野生型と比較して高い細胞傷害活性を示し、NKT細胞

のアジュバント活性を応用した新たなNK細胞療法の可能性が示唆されました。

本研究は、TCRの高い抗原特異性とNK細胞の汎用性・安全性を組み合わせた細胞療法の基盤となり得る点に意義があります。従来のT細胞療法では適応や安全性の面で課題が残る場合がありますが、TCRを発現させたNK細胞は他家由来細胞の利用や副作用低減の観点からも発展性が期待されます。将来的には、患者ごとに腫瘍反応性TCRを同定し応用することで、個別化がん免疫療法への展開につながる可能性があると考えています。



研究室では、実験手技や解析方法、論文の精読など多くのご指導をいただき、基礎研究が新規治療の開発を支える重要な基盤であることを改めて実感いたしました。今後はin vivoでの有効性評価や安全性検証を進め、臨床

応用への橋渡しを目指して研究を続けてまいります。

最後になりますが、終始にわたり手厚くご指導いただきました免疫細胞医学教室の本橋新一郎先生、青木孝浩先生をはじめ諸先生方に心より御礼申し上げます。

## みのはな同窓会支援

### 第19回ちばBCRC最優秀賞を受賞して

医学部5年 宮野 ひなた

この度、第19回ちばBasic and Clinical Research Conference (BCRC) におきまして最優秀賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。本会の開催・運営にご尽力いただきました関係者の皆様、ならびにご支援を賜りましたみのはな同窓会の皆様に深く御礼申し上げます。

本会では、「CD8T細胞の機能分化を制御するCD69を標的とした新規がん免疫療法の開発」という演題で発表させていただきました。がん免疫療法は優れた治療効果をもたらす革新的な治療法として注目される一方で、効果には個人差があることや、副作用として免疫過剰活性化による免疫関連有害事象(irAEs)を起しうることが、臨床上大きな課題となっております。私たちは、これらの課題を解決する新たながん免疫療法の開発を目指しており、その標的として、活性化リンパ球に発現する膜タンパク質CD69に着目しております。

私たちの研究室ではこれまでに、CD69の機能阻害が抗腫瘍効果の増強をもたらすことを見出してきました。さらにそのメカニズムとして、CD69が腫瘍特異的CD8T細胞の機能分化を制御していることを明らかにしました。これらの知見を踏まえ、私たちはCD69を新規治療標的

として位置づけ、ヒトCD69の機能を阻害する新規抗体の開発に取り組んでおり、千葉大学理学部との共同研究による抗体作製、およびその新規抗体の実装性検証を進めております。

研究室では、実験手技やデータの解析方法に加え、研究発表のスキルまで、多くのことをご指導いただき、大きく成長することができました。研究の過程で生じた新たな疑問に対し、多角的に考察し先生方と議論を深めていく時間は、常に私の知的好奇心をくすぐるものであり、臨床現場で直面する疑問や課題の根本的な解決につながる基礎研究の奥深さや魅力を、日々実感しております。ここで得た学びを糧に、今後も医療の発展に貢献すべく、より一層精進して参ります。


最後に、日頃より熱心かつ温かいご指導をいただいております木村元子教授、那須亮先生をはじめ、実験免疫学教室の皆様には厚く感謝申し上げます。



千葉大学みのはな同窓会 会員の皆様へ


## 「会員総合補償制度」のご案内

保険期間：2026年3月1日午後4時～2027年3月1日午後4時（中途加入随時受付）



医療の遂行に起因して、万一患者の身体に障害を与えてしまった場合(死亡を含む)にその法律上の損害賠償責任のご負担を補償します。出張診療中も監督責任を問われた場合も対象。

対人1事故につき **支払限度額 3億円**（保険期間中9億円）**Z3**タイプ登場




**医師賠償責任保険（勤務医向け）**

産業医等活動保険(任意付帯オプション)も取扱中。

支払限度額が拡大！医療業務中の万が一に備えて

PIONEER 株式会社パイオニア

Tel 0120-36-8442 Fax 0120-36-1061 

https://www.pioneerltd.com/

この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットでご確認ください。また、ご加入にあたっては、必ず重要事項説明をよくお読みください。詳細は団体代表者の方にお渡ししております保険約款および特約によりませんが、ご不明な点は取扱代理店または引受保険会社へお尋ねください。

【引受保険会社】 **東京海上日動火災保険株式会社**（担当部）医療・福祉法人部 Tel: 03-3515-4143（平日 9:00～17:00） 2026年3月 25TC-000287

松永正訓 (昭62) 著

『いのちは輝く わが子の障害を受け入れるとき』

中公文庫 定価 980円 (税別)



私の23冊目の著作です。本書は、2019年に発刊した単行本が元になっています。単行本は、読売新聞オンライン・ヨミドクターに連載した記事をベースに書籍化したものです。ヨミドクターの連載は、読売新聞のネット記事史上、最高に読まれたそうです。記事はYahoo! Japanのトップ

ページにそのつど転載され、総ページビューは、1億900万を超えました。この中で私は、

- ①わが子の障害を受け入れることの尊さと難しさ
- ②障害や病気があまりに重いときに、医師が治療に悩むこと
- ③出生前検査に対する私たちの戸惑いや苦悩

について書いています。

障害児を受け入れるということを書くのはけっこう難しいものです。その困難を乗り越えることに感動したと言ってくれる人がいる一方で、「障害児は生まれない方がいい」とか「育てる必要はない」などの不寛容な言葉も寄せられました。

クリニックに手紙が多数届いたり、私の書くブログのコメント欄にも意見が多数ついたりしました。中には脅迫状のようなものもありました。

松永正訓 (昭62) 著

『60歳からの人生を変える22の発想～医師をやりながらベストセラーを出した僕の方法』

小学館新書 定価 1,000円 (税別)



私の24冊目の著作です。本書は、医療情報サイトm3.comに1年間連載した医療エッセイが基になっています。このエッセイは医療者向けでしたが、今回、書籍化するにあたって編集者さんからたくさん注文がつき、大幅に改変しました。たくさん加筆して、たくさん削除しています。

その結果、一般の人向けに作られています。でも、

単行本を作るとき、連載原稿にかなり手を入れ、加筆も行い、全体として完成度の高い一冊になったつもりです。新聞の書評欄でも取り上げられ、雑誌社からのインタビューもいくつか受け、大変手応えがありました。

本はすぐに重版になりましたが、その後は静かに売れるという感じでベストセラーにはなりません。通常、こうした作品は4～5年で絶版になってしまうのですが、中央公論新社の編集者が「内容がとてもいいので、ぜひ、文庫本にしたい」と言ってくれました。そこで、出生前検査と着床前検査に関して、「5年後の現在地」を加筆し、文庫版を作りました。

解説文は『こんな夜更けにバナナかよ』で大宅壮一ノンフィクション賞と講談社ノンフィクション賞をダブル受賞した渡辺一史さんに書いていただきました。札幌在住の渡辺さんとは2014年に東京で一緒にビールを飲んで以来、メール友だちの関係です。渡辺さんのおかげでこの文庫本に、より一層輝きが増したと思っています。

医学・医療がどれだけ発達しても、この世には、重い障害や病気を持った子は必ず生まれてくるし、存在します。そんな不公平な星の下に生まれた子たちは懸命に生きていて、家族はそうした子どもたちを精一杯守ろうとしています。

小児医療の大切な一面が本書には表れていると思います。同窓のみなさま、ぜひ、本書を手にとってください。

医療関係者が読んでも十分に楽しいと思います。

これから60歳になろうとしている人、60歳になった人、60歳を過ぎていろいろ思いのある人。そういう人々を対象に、60歳になったら気合を入れて、人生を力強く生きようという本です。ちょっとカッコつけて言えば、人生をスターティングオーバーしようという本です。ぼくの主張の根拠には、日々のクリニックでの働き方があります。それを土台にして、こういう生き方はどうですかと、提案しています。

ビジネスパーソンを見てみれば、60歳で定年を迎え、楽隠居ができる時代は終わったと分かるでしょう。60を

過ぎて働いている人が多数います。私たちは結局のところ、なかなか仕事から逃れることができません。定年後に雇用延長で働くと、あまり仕事にやりがいなくて、おもしろくないという話も聞きます。でも、どうせ働くなら、仕事を楽しんだ方がいい。考え方一つでそれをおもしろくすることができます。そういう楽しみ方を書きました。

また、還暦を過ぎると時間管理が大切になります。若い頃のように時間はもう無限にはありません。ちょっと油断すると時間はどんどん経っていきます。どうやって時間をコントロールするか。この怪物みたいな時間をうまく飼い慣らせば、60歳からの人生は勝ちです。ぼくの時間管理を紹介しましょう。

また、仕事だけでは人生はつまらないものです。趣味

も大事だし、それ以上に大事なものは、人に会うことです。人に会うチャンスは、自然には生まれません。自分が動くのです。自分が動かないと、世界は何も変わりません。人は宝です。人に会えば、思わぬ出会いが次々にやってきます。

そのほかにも、手帳やノートの使い方など、知力の衰えを「武器」で補う方法も書きました。こうしたライフスタイルの変更は、還暦を迎えて自分で意識してやったというより、振り返ってみると還暦あたりで自分のライフスタイルを変えていたことが分かりました。やっぱり、60歳になると、色々な面で衰えがあり、このままではまずいと思ったのでしょうか。

おもしろい本に仕上がったと思います。同窓のみなさまもぜひ、応援してください。

榊原隆次（旭川医大・昭59）・小松尚也（昭63）・渡邊博幸（平4） 著

## 「COCOROとKARADA ～一緒に紐解く古典とメディカルミステリー～」 Body and Soul: a journey of world classics and medical mysteries

中外医学社 定価 5,940円（税込）（2025年12月発行）



昭和59年入局の脳神経内科の榊原隆次と申します。このたび「COCOROとKARADA～一緒に紐解く古典とメディカルミステリー～」Body and Soul: a journey of world classics and medical mysteriesが発刊されました。脳神経内科と精神科は、かつて同じ学問から分かれてきた経緯があり、現在も

境界領域の患者さんが多く、その診療は重要と思われまます。私が自律神経の研究に携わってきたことから、内科・泌尿器科の先生方との協働が多く、今回、精神科の小松尚也先生・渡邊博幸先生のお力を借りて、身体症状の歴史の変遷と概念、脳科学的知見、そしてストレス応答のメカニズムと治療についてまとめてみました。臨床現場に活かせる理解を目指し、読み物としても興味を頂けるよう工夫しており、脳神経内科・精神科をはじめ、総合診療医、看護師、心理職、医学生にも有用な一冊と存じます。

### 投稿のご案内

- 原稿は800字程度で事務局まで！
  - 会報の発行日は1月、5月および9月です。  
原稿は発行日の3ヶ月前までにご提出ください。
  - ※なお、発行日が変更になる場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- みのはな同窓会事務局 e-mail: info@inohana.jp

令和8年度 千葉大学医師会 日本医師会認定産業医研修会  
基礎（後期・実地）・生涯（更新・実地）開催のご案内

標記研修会を下記の通り開催いたしますのでご参加下さいますようご案内申し上げます。  
本研修会は日本医師会認定産業医制度における認定産業医になるための研修及び更新を希望する医師の研修です。

1. 主 催：千葉大学医師会
2. 日 時：令和8年11月11日（水）18時～20時
3. 場 所：千葉大学医学部・医学系総合研究棟3階 第1講義室  
千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学亥鼻キャンパス内  
JR千葉駅東口 7番バス乗り場から京成バスを利用15分、  
「千葉大医学部・薬学部入口」下車 徒歩1分  
※ご来場の際は公共の交通機関をご利用願います。
4. 定 員：70名
5. 受 講 料：千葉大学医師会員 無料、非会員：2,000円（当日、現金のみ）



医学系総合研究棟

6. 申込方法：下記URLまたは二次元コードよりお申込みください。  
申込URL：<https://forms.gle/p18fg33GGJKNuZp78>



7. 申込期限：令和8年10月30日（金）※定員に達しない場合は期日以降も受付いたします。

8. 研修内容：基礎（後期1単位・実地1単位）又は生涯（更新1単位・実地1単位）

「最近の労働衛生行政について」「作業環境測定実習」

千葉大学大学院医学研究院 環境労働衛生学 教授 諏訪園 靖先生  
同 准教授 能川 和浩先生  
同 助教 渡邊 由美香先生

※生涯教育講座のCC：6. 医療制度と法律 1単位、11. 予防と保健 1単位が取得可能

※定員になり次第締め切ります。

※受講票は発行しませんが、申込み受付後、事務局よりメール等により受付連絡をいたします。

※日本医師会 MAMIS：研修管理機能のシステムを用いて単位付与を行ないます。

また、受講に際し事前にMAMISマイページ登録が必須となります。

本件に関する問合せは、【医師会会員情報システム運営事務局】までお願いします。

【医師会会員情報システム運営事務局】

「MAMISの操作」「ID・パスワード等再発行」等のMAMIS全般に関わる問合せ

e-mail：[inquiry@mamis.med.or.jp](mailto:inquiry@mamis.med.or.jp) TEL：0120-110-030

お問合せフォーム <https://mamis.med.or.jp/contact/>

平日10：00～18：00 土日祝、年末年始を除く平日

申込・問合せ：千葉大学医師会 事務局 (<https://chibamed.jp/>)

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部・みのはな同窓会事務室内

Tel：043-202-3755 Fax：043-202-3757 e-mail：[ishikai@c-med.org](mailto:ishikai@c-med.org)

議 事 要 旨

令和7年度 第3回理事会議事要旨抜粋 (Zoom利用によるWeb会議)

日 時：令和8年2月26日(木) 18時～19時

出席者：

吉原俊雄 (会長)			
白澤 浩 (副会長)			
伊藤達雄 (参与)			
栗原正利 (参与)			
大井利夫 (顧問)			
吉川廣和 (顧問)			
赤倉功一郎	伊藤彰一	井上賢治	岡本和久
小島広成	齊藤光江	島 正之	諏訪敏一
諏訪園靖	高橋宏和	田邊政裕	鶴田好孝
中島 透	中田孝明	林田和也	ピアス洋子
平澤 晃	星野 聡	松前孝幸	森本直樹
横須賀忠			(敬称略)

吉原俊雄会長が議長となり協議が進められた。

議題

1. 報告事項

(1) 予算執行状況 (中間報告)

伊藤彰一理事より資料に基づき、収入については、会費の納入状況、寄附金の状況、支出については、総会費・理事会費・委員会費の状況、備品費としてパソコンの入れ替え、みのはな美術展の最後の助成、予備費などについて報告がされた。

(2) ホームカミングデー

吉原俊雄会長より2025年11月2日(日)15時から千葉大学医学系総合研究棟で開催され、卒後50年(昭和50年卒)、卒後25年(平成12年卒)の先生が出席したと報告がされた。卒後15年の招待については四金会担当の先生方と検討する事とした。

(3) 教授就任資料

みのはな同窓会報に掲載した教授就任について、1年分まとめて提示した。

2. 協議事項

(1) 令和8年度行事予定

吉原会長より資料に基づき、年1回の対面での理事会は、4月23日に例年通りステーションカンファレンス東京で開催する事、ホームカミングデーは11月1日(日)に開催を予定している事が説明された。他の予定についても説明があり、行事予定が承認された。

(2) 成長する年表の改定について

田邊政裕理事より150周年記念の年表をホームページで更新する事が報告され、継続性を考え会員名簿の3年ごとの更新に合わせて年表も更新する事が説明された。

(3) 令和8年度総会について

昨年より過去の開催方法に戻して支部担当制の合同開催となった。昨年は大学支部が担当。令和8年は東京支部が担当し、令和9年は千葉県支部が担当する。今年の開催については東京みのはな会会長の岡本先生と事務局も含めて相談しながら準備を進める事が説明された。

東京みのはな会会長の岡本和久理事より講演を文部科学省高等教育局医学教育課の松本晴樹先生(平18)に依頼した事が報告された。

(4) 令和8年度同窓会賞について

公募がなかったため、社会貢献賞に笠貫宏氏(昭42)、功労賞に奥村康氏(昭44)が候補として推挙され、承認された。東京みのはな会が総会の担当になるので、授賞式の座長は東京みのはな会の理事が担当する事とした。

(5) 令和8年度役員選出について

吉原会長より資料に基づき、山梨みのはな会より新理事として、古屋好美氏(昭53)の推薦があった事が報告され、承認された。上田真喜子先生の後任については、近畿みのはな会会長の島正之先生に事務局より推薦を依頼する事とした。

(6) 会報のレイアウトについて

吉原俊雄会長より会報を縦書きから横書きへ変更する事が提案され、了承された。

また、クラス会などの集合写真には氏名の記載を依頼していたが、今後は負担を考慮し任意とする事が説明された。次回の会報で説明文を掲載する事とした。

(7) 学生説明会(医6)でのボールペン配布について

11月3日に行う医学部6年生の臨床実習後OSCEでは筆記用具を持ち込めないため、その後の説明会で同窓会オリジナルのボールペンを配布することが提案された。卒業間際の学生との繋がりを強化し、医師賠償責任保険等の情報を伝える機会を作ることができることから了承された。

(8) その他

吉原俊雄会長より笠松紀雄先生(昭56)が主催する第59回全日本医師剣道大会静岡大会への寄付支援の提案があり、50,000円の寄付を行う事が承認された。開催後は大会の様子を会報へ寄稿していただく事とした。

## お く や み

高石 寿 (新潟医専・昭20)  
 古江 増蔵 (昭21)  
 山中 茂 (昭21)  
 村浦 公二 (昭22)  
 戸崎 茂男 (昭25)  
 河合弘太郎 (東京大専・昭25)  
 小倉 久文 (新潟大・昭26)  
 梅澤 英正 (昭28)  
 後藤 澄夫 (昭30)  
 高橋 康 (昭30)  
 福井 朗 (昭30)  
 原田 豊 (金沢大・昭30)  
 齋藤 恭一 (日本医大・昭31)  
 新村 宗敏 (日本大薬・昭31)  
 神山 守人 (昭32)  
 川口 幸夫 (昭32)  
 高倉 永政 (昭32)  
 矢野 和之 (昭32)  
 小林みち子 (昭33)

小倉 孝道 (日本医大・昭34)  
 千野宗之進 (昭35)  
 石下峻一郎 (昭36)  
 岡田 信道 (昭36)  
 栗原 稔 (昭36)  
 小池 宏之 (昭36)  
 松本 一暁 (昭36)  
 小松崎 睦 (順天堂大・昭36)  
 小島 弘敬 (昭38)  
 千葉 胤道 (昭39)  
 遠山 敬介 (昭40)  
 久満 董樹 (昭40)  
 村松 芳子 (昭40)  
 伊藤 弘世 (信州大・昭40)  
 前坂 機江 (昭41)  
 志村 寿彦 (昭44)  
 西島 浩 (昭44)  
 相良 正彦 (昭45)  
 太田 要生 (大阪市大・昭45)

大内 泰子 (昭46)  
 山本 実 (千葉大薬・昭46)  
 戸出 健彦 (昭47)  
 葉山 輔治 (昭47)  
 東 義城 (台北大医・昭47)  
 川田 克也 (昭48)  
 園 信義 (昭48)  
 金子 良一 (昭49)  
 右田 琢生 (昭49)  
 上田真喜子 (昭50)  
 金沢 春幸 (日本大歯・昭51)  
 大迫 政智 (昭52)  
 中山 大典 (昭52)  
 藤屋 哲夫 (昭53)  
 武内 利直 (北海道大・昭54)  
 加藤 功 (帝京大・昭56)  
 千賀 啓功 (昭57)  
 吉野 克正 (昭57)  
 金山 明夫 (昭62)

### あ の は な 同 窓 会 費 口座振替ご利用の先生方へ

同窓会会費納入に口座振替をご利用いただき厚くお礼申し上げます。  
 さて、令和8年度同窓会費5,000円をご指定口座より7月22日に振り替えさせていただきます。  
 今後とも同窓会活動にご理解ご協力をお願い申し上げます。

### 編 集 後 記

新緑の候、会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。第200号という記念すべき節目を迎えた今号の最大の変更点は、誌面を横書きへ刷新したことです。新聞形式から横書きにすることで、英語論文タイトルやURLといったアルファベットの記載がスムーズになるなどの利点を鑑みると、医学という科学分野に関わる会報として横書き形式は必然のことかもしれません。慣れ親しんだ縦書きを離れる寂しさもございますが、情報の伝えやすさを重視した新しいスタイルをお楽しみいただければ幸いです。

今号の編集にあたり、同窓会ホームページのバックナンバーで折り返し点の第100号を開いてみたところ、長野県支部報告の写真の中に若かりし頃の自分の姿を見つけ、思わず手が止まりました。わずか一年という短い在任期間ではありましたが、北信濃の山々に抱かれた須坂の美しい街並みや、温かくご指導いただいた諸先輩方の顔が鮮明に蘇り、しばし感傷に浸るひと時となりました。

た。100号の節目に若手として誌面にいた私が、今こうして200号の編集に携わっていることに、不思議な縁と時の流れの速さを感じずにはられません。

今号も全国の各支部から届いた活気ある報告や、絆の強さを感じさせるクラス会開催の便りに多くの元気をいただきました。寄稿いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。200号という頂を越え、本会報はさらなる高みを目指して歩み続けます。今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

今野 慎 (昭62)

### — 会報200号編集委員 —

菱木 知郎 (平5) 編集委員長  
 杉田 克生 (昭54) 白澤 浩 (昭57)  
 剣持 敬 (昭58) 今野 慎 (昭62)  
 小島 広成 (平3) 宍戸 忠幸 (山梨医大・平8)  
 大西俊一郎 (平17) (敬称略)